

# 能代市「少子化要因調査・分析事業」 報告書

令和2年3月

株式会社フィデア情報総研



# 目次

◆ はじめに.....	1
(1) 事業の背景と目的.....	1
(2) 能代市の人口動向.....	2
1. 能代市フィールドワークの概要.....	6
(1) フィールドワークの目的.....	6
(2) フィールドワークの手法.....	7
(3) 能代市におけるフィールドワークの概況.....	7
(ア) 人口移動・Uターン志向・移住支援.....	8
(イ) 未婚化・結婚観・結婚支援.....	8
(ウ) 出産・子育て環境・子育て支援.....	9
(エ) 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）.....	9
(オ) 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）.....	10
(カ) 旧能代地域の特徴.....	11
(キ) 旧二ツ井町の特徴.....	12
(ク) ヒアリング内容のまとめ.....	13
(4) 少子化や人口減少に関する社会文化的要因の影響に関する考察.....	27
(ア) 地域社会.....	27
(イ) 家族.....	28
(ウ) 行政担当者と地域住民の間における認識・意識のズレ.....	29
(5) フィールドワークを通じて得られた知見.....	31
2. まとめ.....	33
(1) 『秋田県 少子化要因調査・分析事業』の結果概要.....	33
(2) 定量分析による能代市の特徴.....	33
(3) 能代市アンケート調査とヒアリング調査の結果から.....	34
(4) 今後の課題 ～提言にかえて～.....	36
3. 参考資料.....	38



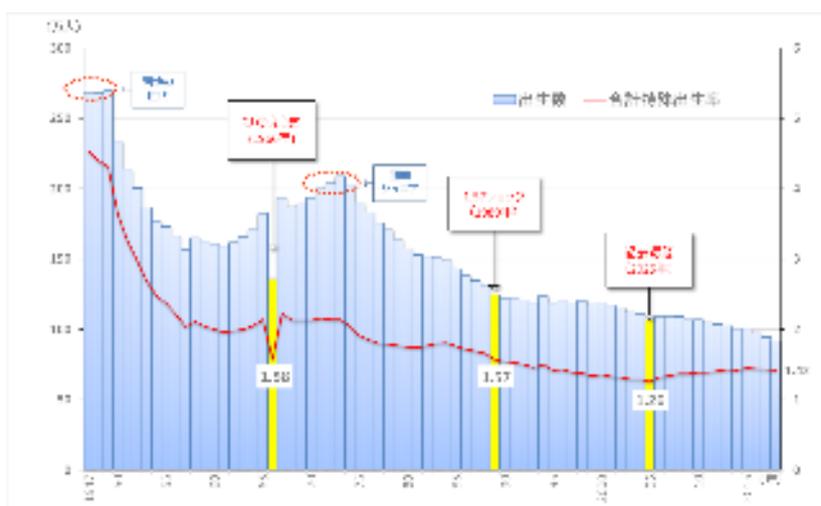
# ◆ はじめに

## (1) 事業の背景と目的

わが国はすでに人口減少過程にあり、これは少子化（出生数の減少）に因るところも大きい。厚生労働省が昨年12月に公表した2019年の「人口動態統計」の年間推計によると、日本人の国内出生数は86万4,000人、前年比で5.92%減となり、1899年の統計開始以来初めて90万人を割り込んだ。国立社会保障・人口問題研究所の推計（2017年4月公表）によれば、日本全体の出生数が90万人を下回るのは2020年、86万人台となるのは2021年と推計されており、国の少子化対策にもかかわらず想定以上に少子化が加速している。また、国は2025年度までに「希望出生率1.8」の目標に掲げているが、足元の合計特殊出生率は2005年の1.26を底として持ち直す傾向にあったものの、2015年の1.45後は再び減少に転じ、2018年は1.42となり、これまでのところ目標達成は困難な状況にある。因みに秋田県の2018年の合計特殊出生率は1.33と全国平均を大きく下回り状況はさらに深刻化しており、県内の各市町村においては、国や県の少子化対策に加え、地域の実情に即した有効な施策の展開が求められている。

こうした状況を踏まえ、合計特殊出生率や出生数など少子化に関連する指標が、全国平均及び県平均を下回る能代市では、数値化が困難な地域の慣習、文化、住民意識などについて学術的な観点からフィールドワーク調査を実施し、統計数値に現れない要因などについて定性的な分析や県内他市町村との格差の分析等を行い、能代市の実情に即した効果的かつ効率的な少子化対策等に反映していくための基礎資料とする目的で、本報告書を作成することとした。

【全国の出生数と合計特殊出生率の推移】



資料：厚生労働省「人口動態統計」（各データを基にフィデア情報総研で作成）

## (2) 能代市の人口動向

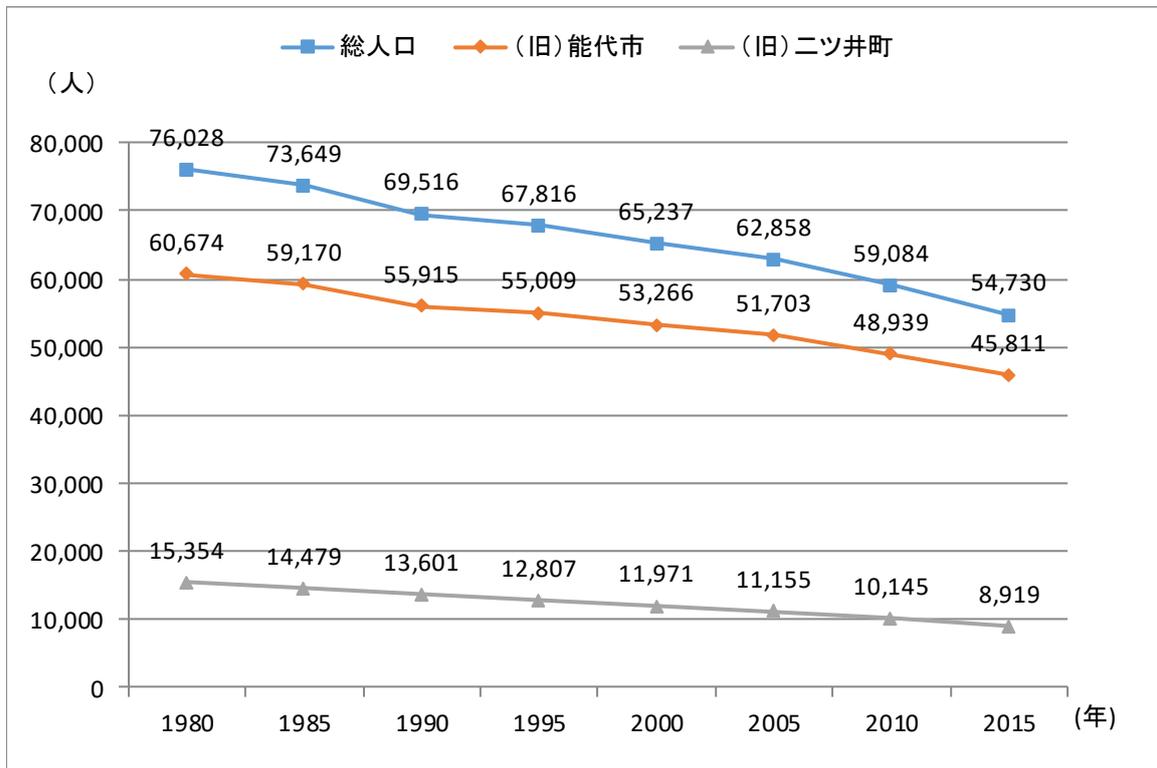
能代市の人口（合併前は旧能代市と旧二ツ井町の合計）を国勢調査ベースで見ると、旧市町間で傾向に幾分違いはあるが、第2次オイルショック後の全国的な景気後退の影響等により1980年には76,028人（1975年に比べて851人、1.1%増）と一時的な持ち直し局面があったものの、以降は一貫して減少を続け、直近の2015年調査では54,730人（1980年に比べて21,298人、28.0%減）まで減少している。この間、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の減少が続いた一方、老年人口（65歳以上）は増加が続き、2015年の人口構成（年齢不詳を除く）は年少人口が5,058人（構成比9.5%）、生産年齢人口は28,184人（同52.7%）、老年人口は20,248人（同37.9%）となり、人口減少と少子高齢化が加速している。

2018年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の2018年地域別将来推計人口では、2045年の能代市の人口が27,564人まで減少し、高齢化率も57.4%と6割近くまで上昇すると予測されている。この間、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は一貫して減少を続け、老年人口（65歳以上）も2025年には減少に転じるものの、2030年には19,457人と初めて生産年齢人口（18,564人）を上回り、2045年の人口構成は、年少人口が1,402人（構成比5.1%）、生産年齢人口が10,351人（同37.6%）、老年人口が15,811人（同57.4%）となると予測されている。こうした中、今後の人口減少と少子高齢化の一段の加速により、市勢の維持が困難となる可能性も現実味を帯びてきている。

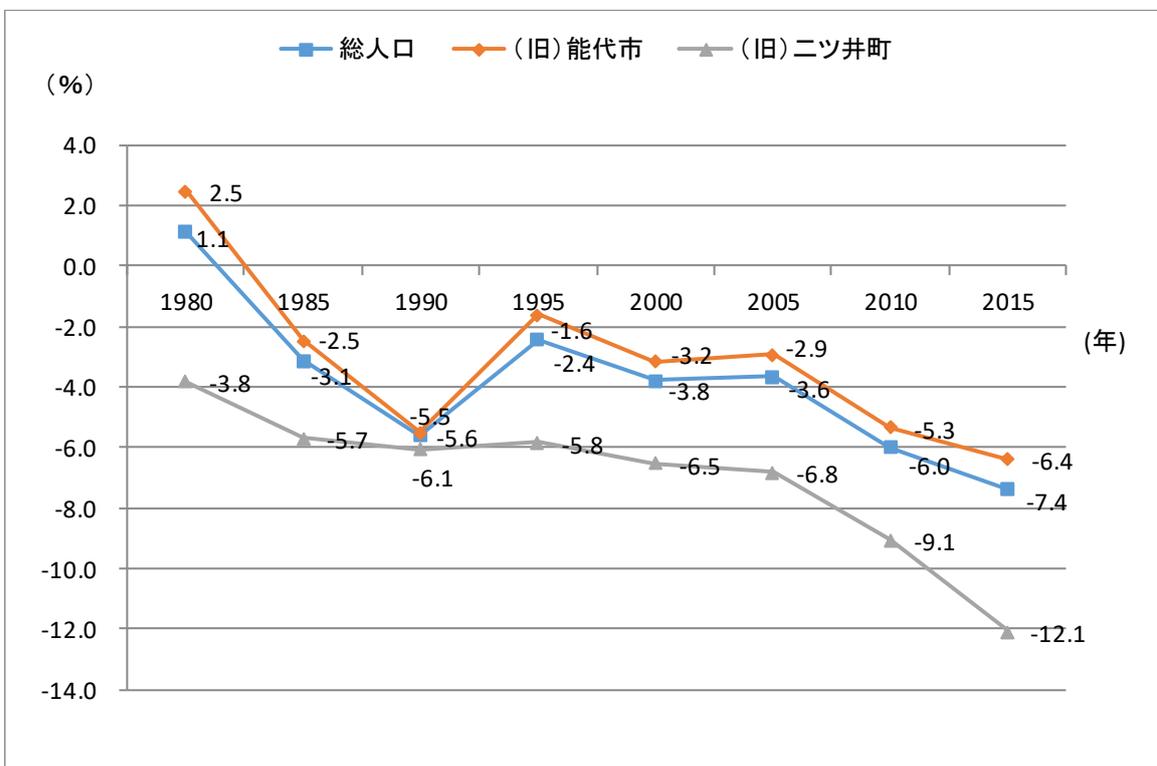
2019（令和1）年10月1日現在の能代市の人口（秋田県年齢別人口流動調査結果）は50,842人と、前年比で984人、1.90%減少し5万人割れが目前となっている。こうした中で今後、能代市が持続的に発展していく上で、人口減少に歯止めをかける取り組みが益々その重要性を増している。

昨年度、弊社が県の委託で実施した「秋田県少子化要因調査・分析事業」をみると、能代市の直近の合計特殊出生率は1.40（2008-2012年平均、ベイズ推定値）と全国値（1.38）、秋田県値（1.36）を上回っているが、近年は低下傾向が顕著であるほか、有配偶出生率（15-49歳）が62.4%（18位）と低く、2008-2012年平均の年齢階級別出生率は25-29歳が0.47（16位）、30-34歳が0.42（14位）とともに中位以降にあることがわかる。また、能代市の出生率については、「出生率に影響している市町村の地域力」では“結婚要因に影響する地域力「②地域の経済・雇用環境」「④保育・子育てサポート」が市町村平均を下回っていることが、結婚要因にマイナスの影響を与えていると考えられる”と分析しているほか、「県出生率との差の要因分解」では“第2子以降の要因がマイナスの影響で、出生力要因もマイナスとなっている”と分析されている（詳細は本報告書「3.参考資料」及び秋田県「少子化要因調査・分析事業報告書」を参照 <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/42398>）。

【能代市の総人口の推移】

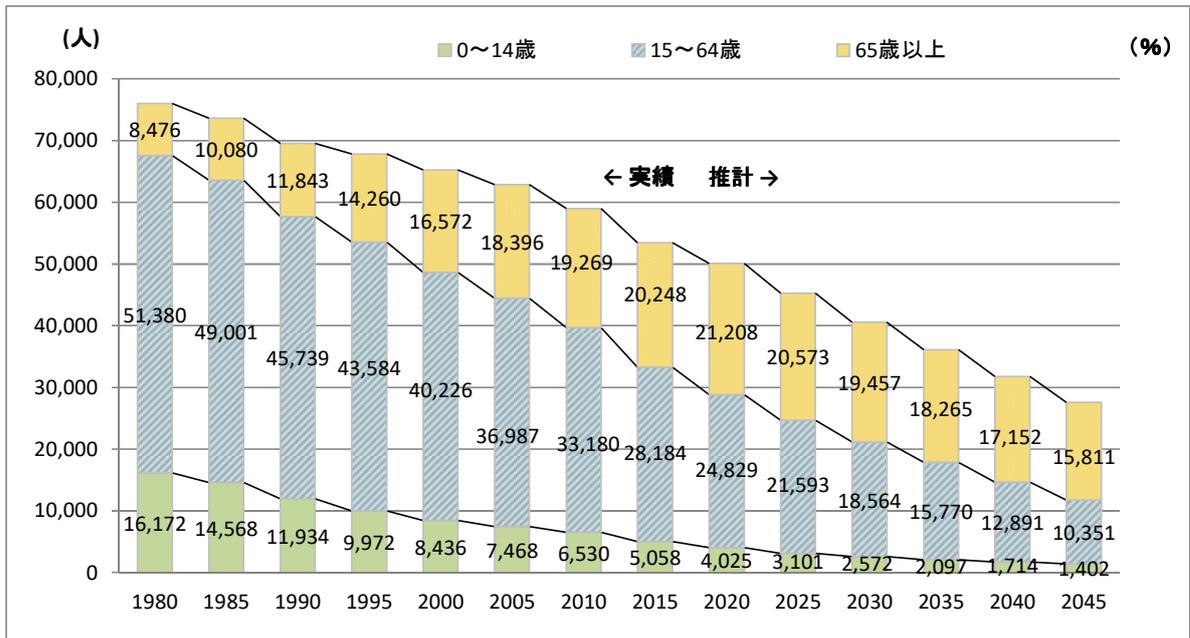


【能代市の人口増減率の推移】



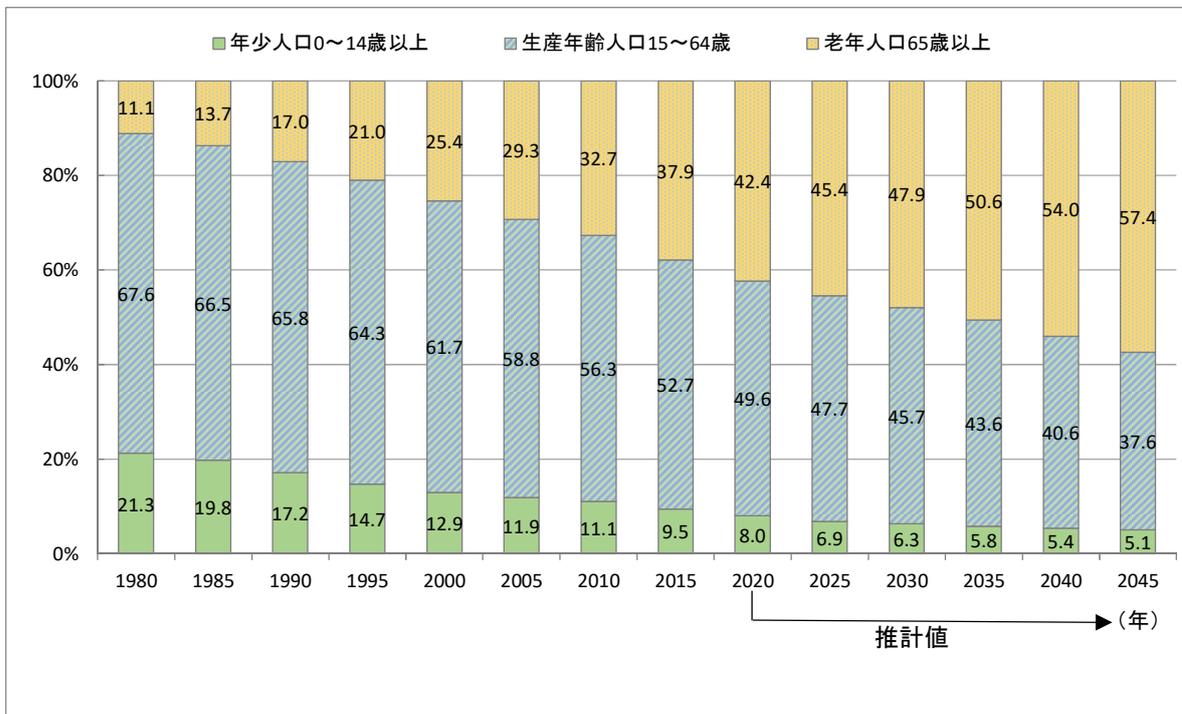
資料：国勢調査（各データを基にフィデア情報総研で作成）

### 【能代市の人口3区分別人口推移】



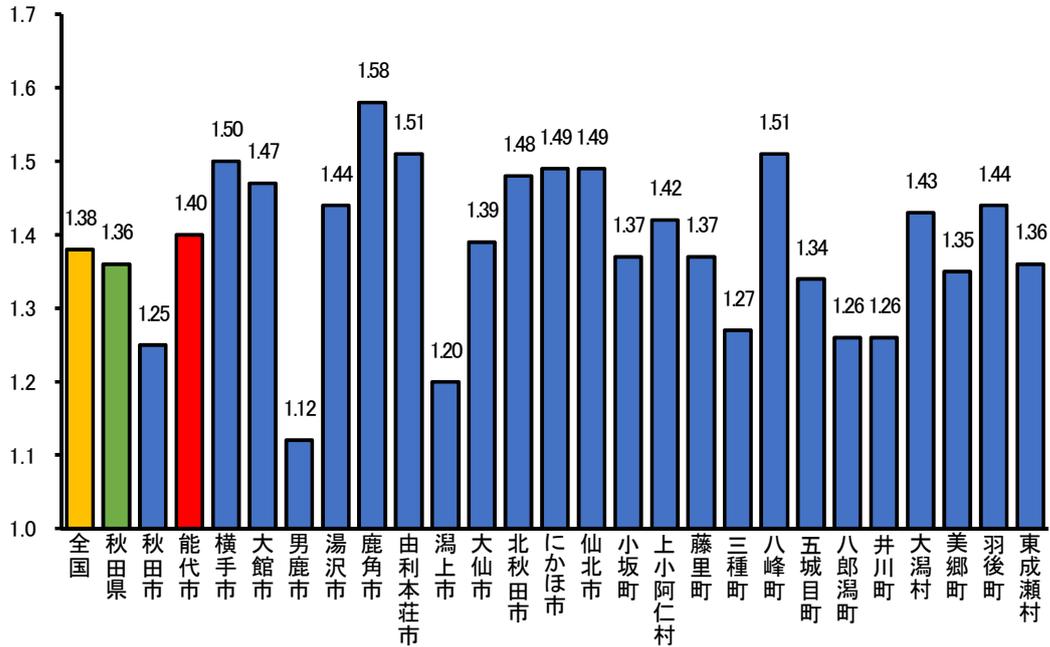
資料：2015年までは国勢調査を基に掲載。2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の2018年推計結果を掲載（各データを基にフィデア情報総研で作成）

### 【能代市の人口3区分別人口構成比推移】



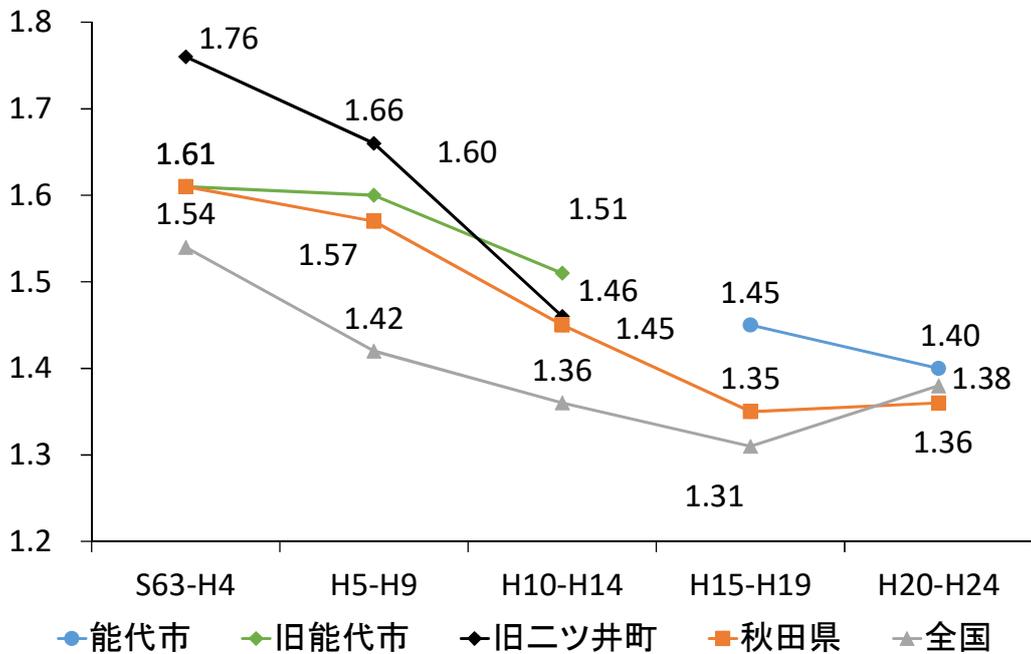
資料：2015年までは国勢調査を基に掲載。2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の2018年推計結果を掲載（各データを基にフィデア情報総研で作成）

【県内市町村の合計特殊出生率（ベイズ推定値）】



資料：秋田県「少子化要因調査・分析事業」報告書より抜粋。厚生労働省公表の2008-2012年のベイズ推定値を基にフィデア情報総研で作成。

【全国の出生数と合計特殊出生率の推移（ベイズ推定値）】



資料：秋田県「少子化要因調査・分析事業」報告書より抜粋。厚生労働省の公表数値を基にフィデア情報総研で作成。

# 1. 能代市フィールドワークの概要

## (1) フィールドワークの目的

わが国では、1970年代半ばより合計特殊出生率が人口置換水準を下回っており、すでに少子化の状態が40年以上続いている。2018年の合計特殊出生率は1.42であり、先進国の中でもきわめて低い水準にある。能代市においても、前述のように、合計特殊出生率が低い水準で推移しており、この著しい「少子化」が人口高齢化、人口減少をもたらしていることは言うまでもない。

ここで重要な課題として認識されるのは、少子化対策が開始されてから20年以上の年月が経っているにもかかわらず、合計特殊出生率の低下に歯止めがかからないという実態である。これは、日本という国においても、秋田県においても、そして能代市においても共通する課題であると言えよう。

これまでの少子化対策は、国・県・市町村のすべてにおいて「子育て支援」を中心に展開されてきた。それに加え、「男女の働き方改革」にも重点的に取り組んできたが、このような取り組みに対し、近年、「結婚支援」への取り組みが十分でなかったという指摘がある。それは、少子化の主要因が「未婚化」であるという認識が共有されるようになったことと関連している。

しかし、未婚化対策として結婚支援を有効に行うことは、さまざまな側面で難しいという指摘もある。それは、なぜ未婚化が著しいのかについての見解・仮説が研究者間で一致していないこと、“結婚”という個人の自由な選択に委ねられるべきことに国や自治体が介入することへの忌避感が存在すること、地域によって未婚化の状況は異なるため一つの画一的な方法が見出しにくいこと、などが考えられる。このような障壁に阻まれ、有効な未婚化対策を実施することは非常に困難ではあるが、少子化に歯止めをかけるためには、この問題を打破することが求められているのではないだろうか。

そこで、能代市における少子化の現状・要因を地域住民はどのように認識しているのか、また、能代市において結婚支援を展開していくにあたり、どのような支援・方法が適切なのか、これらについてフィールドワークを通じて明らかにしようと試みるのが第一の目的である。

ここで、能代市においてどのような結婚支援の形が望ましいのかということを考えるときに、その手がかりとなるのが能代市の地域特性や生活慣行であるといえよう。したがって、第二の目的は、能代市における少子化や人口減少に対し、気候・風土・風習・ライフスタイルなどの地域特性や生活慣行が、どのように影響しているのかを追究することである。

その際、昨年度に実施した秋田県「少子化要因調査・分析事業」でのフィールドワーク対象地域であった鹿角市・男鹿市・仙北市・三種町・にかほ市と比較しながら考察していくことにしたい。

## (2) フィールドワークの手法

本調査研究では、上述の課題・目的を念頭に置きながら、以下の方々を対象としてヒアリングを実施した。まず、行政関係者に対し、若者の移動・流出・Uターンの状況、結婚・出産・子育てに関する状況や支援の取組などを中心にヒアリングを行った。

次に、民生委員・区長・自治会長に対し、当該地域の自然・産業・歴史・集落の現状や行事などの地域生活、また世帯の同別居状況・家意識・祖父母のかかわりなどの家族生活、未婚化・結婚観に関する状況などを中心にヒアリングを行った。

また、地域内保育関係者に対し、送迎や子育て全般に関する特徴（両親の働き方との関係、祖父母のサポート、父方・母方祖父母での差異など）を中心にヒアリングを行った。

さらに、管内教育関係者には、高等学校卒業時における進学・就職・Uターンの動向や生徒の意識（地元志向や男女別の差異など）、進路決定時における親・家族による影響などを中心にヒアリングを行った。

そして、結婚支援関係者に対し、地域における未婚化の現状、未婚者の特徴や男女別の差異、若者の結婚に対する意識や価値観、婚活イベント実施における集まり・男女別の特徴・成果や課題などを中心にヒアリングを行った。

なお、以下で掲載しているヒアリングの具体的記述については、ヒアリング対象者が所属する団体等としての意見・考えではなく、あくまでも個々の見解として掲載しているものである。

## (3) 能代市におけるフィールドワークの概況

能代市において、合計特殊出生率が低水準にある要因や少子化・人口減少に関する社会文化的要因の影響について考察する前に、ここではフィールドワークを通じて把握された本市の概況について触れておく。また、本項においては、旧能代市と旧二ツ井町のそれぞれの特徴についても記述している。なお、以下に詳述する部分については、(ク) ヒアリング内容のまとめを併せて参照されたい。

## (ア) 人口移動・Uターン志向・移住支援

---

ここでは、五つの項目に整理しながら概観していくことにしたい。第一に、「人口移動・Uターン志向・移住支援」などについてである。この項目において、ヒアリングを通じて最も切実に訴えかけられるのは、「若者が外へ出て行ってしまう」という厳しい現実である。その要因・背景としては、さまざまなことが指摘されていた。

まず、秋田県内の大学が少ないため、首都圏や仙台など県外へ進学する傾向が著しい。能代市から秋田市内の大学へ進学する場合には一人暮らしになるため、それなら（一人暮らしをさせるのであれば）県外でも同じという感覚になりやすい。また、高卒での就職は、男子に比べて女子の県外就職が多い状況となっており、それは女子学生の希望者が多い事務系の求人への減少が大きいと認識されている。高校生の女子において、都会でのキャリア志向の学生もいれば、地元で仕事・結婚・出産というライフプランを思い描く学生もいる中で、高卒時の県内就職が困難であるという状況が、後者タイプの女子学生の希望を実現しにくくさせているのではないだろうか。

県外進学者による大学卒業時のUターン就職は少ないが、その中で、女子に比べると男子の方が戻ってくる若者が多いと認識されている。そのため、とくに若い女性が少ないという危機感を抱く人が多い。若者のUターン就職が少ないことについては、雇用の受け皿が少ない、地元でやりたい仕事がないという点があげられるが、これについては、高校生や大学生に地元の魅力的な企業が十分に知られていないのではないかという意見もあった。さらに、長男規範（跡取り意識）や親の介護などをきっかけとして、一定期間後にUターンを希望する者も少なからずいると認識されている。そのような人たちが能代で仕事を見つけ、スムーズに生活基盤を得られるようなサポート体制を充実させることも、求められているように思われる。

## (イ) 未婚化・結婚観・結婚支援

---

第二に、「未婚化・結婚観・結婚支援」などについてである。この項目においては、三つの特徴的なことが析出されたため、順に触れていくことにしたい。まず、「出会い・交際」に関する時代的な変化が著しいことである。かつては、「世話焼く人」、「世話焼きさん」など独身者に相手を紹介したり、声をかけて仲を取り持ったりするような活動をする人が地域の中において、結婚へと結びつけていた。さらに、青年会で知り合い、恋愛関係となることも多く、また職場のスポーツ活動やサークル活動、休日を喫茶店や一緒に外出して過ごすなどのグループ交際も活発で、このような状況が1990年代まで、今の50・60歳代の世代までは経験する人が多かったという。しかし現代では、世話焼きさん、青年会、グループ交際のほとんどが見られなくなっている。

このような状況の中で、近年、徐々に増えてきたのが婚活イベントであるが、その中で壁になっているのが「意識・価値観」であろう。具体的には、結婚への意欲の弱まり、自然な出会

いを求める志向性、“婚活”に参加することをまわりの人に知られたくないという思いなどである。中高年の世代からみると、今の若者は結婚への意欲が弱いと感じられており、また、自然な形での出会いがあるはず、20代のうちは自然な出会いを探したいという志向性も感じられており、その結果、婚活イベントへの20代の参加者は少ない。家族やまわりの人が背中を押したいと思っても、スムーズにはいかないことが多いようである。そして、婚活イベントへ参加することを知られたくない、話題にされたくないというような忌避感も壁になっている。このようなことを背景にして、結婚支援活動者の多くが、どうしたら能代市で婚活イベント等へ積極的に参加しようと思う若者を増やすことができるのか、その課題に直面している。

もう一つ特徴的なことは、「経済的な問題」である。40・50歳代で独身の人は女性よりも男性に多いと認識されている。その独身者の多くは親と同居しており、経済的に苦しい、結婚して家族を養うだけの経済力をもてないことが、未婚となっている大きな理由であると感じられていることである。

### (ウ) 出産・子育て環境・子育て支援

---

第三に、「出産・子育て環境・子育て支援」などについてである。この項目において、ヒアリングを通じて最も切実に訴えかけられるのは、“子どもの数が大きく減少している”という厳しい現実である。子どもが3人以上いる家庭の特徴としては、祖父母と同居していることや経済的に余裕のあること等が指摘されていた。経済的な問題としては、子育て期だけでなく、高校以降の部分についても言及されている。

子育て環境については、遊び場に関する要望が寄せられており、外で遊べる遊具やアスレチックなどの拡充を求める声もあれば、逆に、屋外の遊び場については十分あるため、冬期の悪天候時でも活用できる屋内の遊び場の拡充を求める声も複数あった。また、産科の病院、保健師の人数（体制）などについて不足しているという指摘もみられる。

子育て支援については、大きな改善を求める声はあがっておらず、一定の満足度が得られているように思われるが、経済的支援についてのさらなる拡充や、障がいをもつ子どもの家庭などからは、中学生になってもファミリーサポートセンターを利用できるようにしてほしいという要望も寄せられている。

### (エ) 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）

---

能代市は、自然災害や台風なども少なく、生活する住環境としては恵まれている部分が大いと感じられている。産業については、やはり“木材”の動向が能代市に大きな影響を与えてきたといえよう。かつて木材で栄え、近隣地域と比べても裕福な暮らしが実現していたという歴史が、能代を田舎ではなく都会的なイメージとして認識させ、家族・親族で貧しい暮らしを支

え合わなければというような連帯感意識よりも、ある程度独立した自立心を育んできたのではないだろうか。それが、“見栄っ張り”という気質や、女性も自立して働くという価値観、あるいは家族やまわりの人に頼らずに生活したいという意識を醸成してきたように思われる。

このような地域特性を基盤として、少子化や核家族化とともに人間関係の稀薄化が著しいことや、高齢の親が子どもに迷惑をかけたくないという意識が強いことなども指摘されている。また、高校生においても、湯沢や大曲などの他地域と比べて、能代では地元志向が著しく弱く感じられてきたという。それは、青年期における年祝いの行事が、無くなってしまった地域があることにも象徴されている。地元への強い思いや郷土愛、そういった部分の弱さは、能代では専業農家が少なく、土地との結びつきが他地域ほど強くなかったことや、跡を継がせなければというような長男規範（跡取り意識）が弱かったこととも関連しているのではないだろうか。

#### （オ） 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）

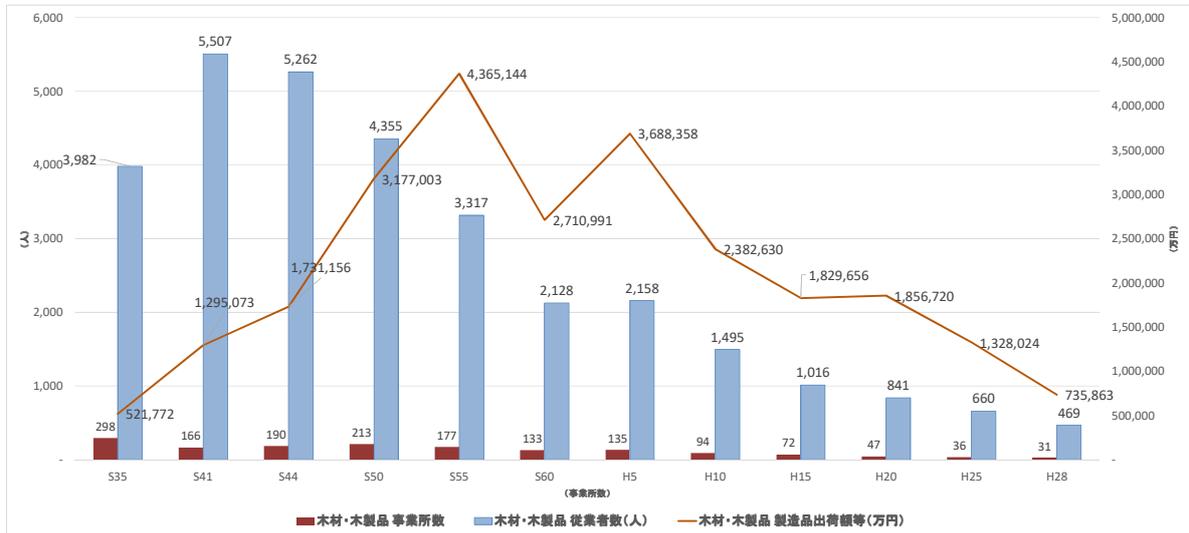
---

この項目において、ヒアリングを通じて最も鮮明に浮かび上がってきたことは、“子どもにかかわる（子育てにかかわる）大人の数が増えている”という実態である。かつては、三世代同居で暮らし、祖父母が孫の子育てにかかわるといった家族が多かった。今ほど晩婚ではないため、50・60代で元気な祖父母が孫の面倒をみることができ、また、働き方の面でも、木材関連の自営という世帯も多かったため、家に両親のどちらかがいるという状況になりやすく、農家の場合にも大人が目が届くところで子どもが過ごしているという環境であったという。高度経済成長期以降から三世代同居が減少し、核家族が増え始めてきたが、多くの女性が専業主婦やパート勤務等で子育て中心の生活をしていた。すなわち、子どもから見ると、父・母・祖父・祖母の大人4人のうちの誰かが子どもの面倒を見ることができる（主に子育てをすることができる）家族が多かったということである。

しかし、現代ではそのような家族が減少し、夫婦共働きの核家族でありながら祖父母に子育てを頼らない（頼れない）という家族が増加している。その要因・背景としては、木材関連の事業所や製造品出荷額が1970年代から大幅な減少傾向に転じ（下記の図参照）、さらに第1次産業従事者の減少傾向が顕著であるように、産業構造が大きく変化したことで、通勤してサービス業などに従事する雇用者が増加してきたことや、結婚した後に三世代同居をしない核家族の子育て世帯が増加してきたこと等が考えられる。後者については、祖父母世代と同居している核家族世帯も多いと思われるが、祖父母の子育てサポートを日常的に受けていないという指摘が目立った。それは、祖父母に頼りたくない、自分たち（親世代）が思うような子育てをしたいという意識の高まりという側面と、逆に、できれば頼りたいと思っても、高齢者の就労増加の中で祖父母が就労しているため頼ることができない状況、晩婚化傾向の中で祖父母が

高齢、要看護・介護のため頼ることができない状況という側面の両面がともに影響しているのではないだろうか。

### 【木材・木製品における事業所、従業員、製造品出荷額の推移】



資料：1985（S60）以前は経済産業省工業統計アーカイブス、1991（H3）以降は秋田県工業統計調査

### （カ）旧能代地域の特徴

ここからは、これまで整理してきたヒアリング内容を補足する形で、旧能代地域と旧二ツ井町の特徴、両地域の差異などに言及しておくことにしたい。まず、旧能代地域の特徴についてである。

能代市街地域の人たちは、地元のことをあまりよく言わない人が多いという。「旧能代（能代衆）は．．．」というように、否定的に話されることが目立つと感じられている。かつて、木材で栄え、裕福な時代を過ごしてきたため、今が否定的な認識になってしまうのではないかと指摘されている。実際、能代市としてみても、現在の財政力指数は秋田県内で2位、課税対象所得は世帯当たりだと高くないが1人当たりでは県内5位となっており、生活水準は決して低いとはいえない。にもかかわらず、今の状況を悲観的に捉える人が多いという現状は、能代の歴史的な背景が規定しているように思われる。

また、能代市街地の方では、子育て支援センターを利用している家庭が、旧二ツ井町よりも多いと指摘されている。その背景には、夫が東北電力や国土交通省などで働いている転勤族の家庭が多いことや、教員・公務員の場合には妻が育児期に専業主婦でも生活できる家庭も多いことがあるのではないかと。しかし、新しく移り住んできた人が多い地域では、PTA役員などのなり手不足に象徴されるように、地域社会の中での協力や人とのつながりが少し弱いのではないかと課題も認識されている。

## (キ) 旧二ツ井町の特徴

---

旧二ツ井町の特徴としては、子育て世帯の流出につながりやすい問題と、伝統的な文化的規範・価値観の問題について、言及していくこととする。まず、前者については、雇用の受け皿に関する事と保育・保健医療に関する事が指摘されている。

旧二ツ井町には、雇用の受け皿が少なく、かつては縫製の工場も多かったが、現在では1カ所を残すのみであるなど、とくに若い女性の働き場が少ない。このような状況の中で、能代市街地の工業団地や北秋田市、大館市などへ通勤する者が多くなっているが、中には、旧二ツ井町を離れ、職住近接の環境を求める若い子育て世帯も出ている。

もう一つ、保育・保健医療に関する事については、旧二ツ井町には保育所が2カ所あるが、保育士不足もあり、0歳児で預かることが難しくなっている。また、二ツ井地区には病児保育を利用できる施設はなく、病児保育を利用する場合には能代市街地まで行かなければならない。さらに、旧二ツ井町には産科や小児科の病院もないため、能代市街地や北秋田市の病院まで通うことになる。祖父母からの子育て支援サポートを受けていない核家族の子育て世帯も多い中で、子どもの体調が優れない場合に近くで頼れるところがないという状況は、夫婦共働きの生活においては大きな負担となりやすい。

このような状況は、子育て家庭にとって旧二ツ井町での生活を選択しにくくさせているのではないだろうか。もし、かつてのように子ども数が多いのであれば、環境が改善される可能性も期待できるが、現代のように著しい少子化の中では困難であり、負の連鎖となってしまうようにも思われる。

次に、後者の伝統的な文化的規範・価値観については、地域社会の濃密な側面と長男規範（跡取り意識）に関する事が指摘されている。旧二ツ井町の地域では、まわりの目を気にする人がとても多く、外から嫁に来た人たちは、地域の中で話題にされたりしやすいと強く感じているという。地域社会のつながりが強いという特徴は、災害時や困難に直面したときなどはプラスに働くことも大きいですが、平常時には煩わしさや息苦しさを感ぜさせてしまうなどマイナスに働く部分もあるのではないだろうか。

最後に、これは両地域の特徴とも言えるが、長男規範（跡取り意識）についてである。日本の中で、東北日本地域を中心に広く存在してきた長男規範であるが、秋田県はそれが強い地域として位置づけられてきた。能代市は、秋田県の他地域に比べると、長男規範がやや弱いのではないかと思われるが、専業農家、家業として商売を続けてきた家、本家筋の家などでは一定の影響力をもっていたと考えられ、長男として跡取り意識をもつ人は多いという指摘もみられる。

能代市の中でみると、能代市街地域に比べて、山間部に近い檜山地区、そして旧二ツ井町では長男規範が比較的強いと認識されている。旧二ツ井町で実施したヒアリングでは、地元へ戻ってくる若者において、跡取りである長男が戻ってくることが多いという指摘や、跡取りとい

うことで男性が地元に残っているが、そういう男性が親と同居したまま結婚していないことが目立つという指摘もみられた。

若い女性において、配偶者選択時、夫の親との別居を重視する傾向が全国的に高まっている中で、“跡取りである長男としての結婚”を考えなければならない男性にとっては、厳しい配偶者選択が強いられている可能性も高い。また、男きょうだいのいない女性（姉妹）にとっても、姉妹の中で一人が親のことや家のことを考えながら結婚相手を選ばなければならないことの難しさも指摘されている。

もちろん、かつてと比べて長男意識というものは弱まっていると言えよう。しかし、昔は4、5人きょうだいの中で長男だけが親のこと、家のことを考えればよい状況であったのに対し、現在は平均2人きょうだいの中で一子（長男あるいは男女問わず一人の子）が親のこと、家のことを考えなければならない状況であるとすれば、その影響は想像よりも小さくなっていない可能性があると考えられる。

#### (ク) ヒアリング内容のまとめ

【話者：能代市行政関係者】

<p>A 人口移動・Uターン志向・移住支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能代は、東京や仙台から遠い場所にあるという実感が強い。子どもたちはそういうイメージを持っているので、外へ出たいと思ってしまうのではないか。</li> <li>・子どもが外へ出て行ってしまふ、家に子どもが残っていない人が増えている。残っていても未婚という状況が多い。</li> <li>・若者が、途中のタイミングで地元へ戻ってきたときに、それをマイナスとして捉えて、話してしまう人が多い。地元へ若者が戻ってきたんだから、もっと喜んで、歓迎してよいはずなのに、それをマイナスと捉えられてしまうことが多い。</li> <li>・男性は地元へ戻ってくる人がたまにいるが、女性は戻ってくる人が少ない。戻ってくるのは離婚して戻ってくるという女性。</li> <li>・二ツ井地区で、20代後半くらいでも戻ってくる人は少ないが、その中では男性が多い。</li> <li>・銀行に“フレッシュさん”がいない。新規採用がほとんど行われていない。OG（いったん退職した人の再雇用）が即戦力として採用されている</li> </ul>
<p>B 未婚化・結婚観・結婚支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔は同級生とかで結婚する人が多かった。青年会などで恋愛して結婚する人も多かった。20年くらい前までであった。</li> <li>・かつては“世話焼く人”がいた。今の60代くらいまではいた。人と人をくっつけるような人がいた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の若者が結婚していないのは、意識の問題が大きいのではないか。結婚したいという意識が弱い。</li> <li>・“婚活”といったらイベントにも参加しにくい。スポーツとか、そういった形のイベントならもっと参加しやすいのではないか。</li> </ul>
<p>C 出産・子育て環境・ 子育て支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化で子ども数が減っていく中で、保育士の処遇改善は難しい状況。</li> <li>・子ども数は減少しているが、支援を必要とする子どもは多い。障がいをもつ子どもが増えている。</li> <li>・子育て支援への満足度は、5年前よりも低い。子どもの遊び場が少ない、経済的支援が少ないなど、未就学児をもつ親からの意見がある。</li> <li>・保育無償化が始まったが、在宅で子育てしている人への支援がなくて、恩恵がないのは不公平感があるように思われる。大館は在宅子育て家庭への経済的支援を行っている。</li> <li>・近年、気になっていることは、妊娠が大きく減少していること、年 200 を切るくらいになっている。</li> <li>・高校以降の費用を心配している親が多い、修学旅行の費用など。</li> <li>・今ファミリーサポートセンターは小学生までだが、中学生でも使いたいという家庭がある。とくに障がいをもつ子どもがいる家庭。</li> <li>・人口当たりの保健師が少ないという実感は普段からある。少ない人数の中で、限られた取り組みとなってしまっている部分はある。</li> <li>・保健師は、各分野に分かれており、以前からあまり連携が取れていない状況。統合的な体制になれていない。もう少し人数を増やして体制を強化できたらという思いはある。</li> <li>・昔は 16 時頃になると迎えにいったらいいという意識が強かったが、今はそういう意識も弱く、また早い段階から保育所へ預けることにためらわなくなっている。すべてを公的な支援に頼ろうという意識が強まっている。</li> <li>・二ツ井地区に小児科はない。何でもみてる個人のクリニックはある。小児科だと能代市街の病院まで行く。</li> </ul>
<p>D 地域（自然・産業・ 歴史・集落・行事など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能代は昔、火事（大火）があり、その後、都市計画をつくって、家の敷地も決まっている。</li> <li>・鹿角は稲作中心、能代は専業農家が少なかったのも、跡を継がせなければという意識が弱かったのではないか。</li> <li>・能代は、自然災害はあまりない、台風なども来ない。</li> <li>・公園などは、半年以上（冬場）使えないので、整備・拡充することにも難しい側面がある。</li> <li>・PTA 役員になりたいという人がなかなかいない。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともとその地域に住んでいた人が多いところは協力・つながりが比較的あるが、新しく移り住んできた人が多いところは、それが少し弱い。</li> <li>・二ツ井地区からは、能代市街へ通勤する人もいるが、北秋田や大館などへ通勤している人も多い。</li> <li>・能代地域の特徴は、親（祖父母）に頼らないという傾向。</li> <li>・能代市は、同居していないと受けられる支援も充実している。それが核家族化を促進している部分もあるように感じる。</li> <li>・生涯学習など8～9割が女性、男性は少ない、恥ずかしいという意識がある。民生委員は男女ともいて、役員は男性が多い。二ツ井地区は女性が強くない。</li> <li>・高齢の親は、子どもに迷惑かけたくないという意識が強い。</li> <li>・能代市街地域の人は、地元のことをあまりよく言わない人が多い。旧能代（能代衆）は... というふうにな否定的に話すことがよくある。昔、木材で栄えていたから、今が否定的な認識になってしまうのではないかな。</li> </ul>
<p>E 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども時代は母方の祖母と三世同居していて、両親共働きだったこともあり、仕事をしていなかった祖母に育てられた。親になってからは核家族で暮らしており、近くに住んでいる妻方の祖母に子どもの送り迎えなど助けてもらうことが多い、妻方の祖母が仕事をしていないので頼れている。</li> <li>・子ども時代は父方の祖母と三世同居していて、家が木材の自営業だったので親のどちらかが家にいることが多く、大人の誰かはいるような環境だった。親になってからは核家族で暮らしており、どちらの祖父母も来るまで15分くらいの所に住んでいるが、70代なので全面的に頼ることは難しく、基本的に子育て支援を利用している。</li> <li>・子ども時代は核家族だったが、家は木材の自営業をしていて、祖父母も自転車で5分くらいの所に住んでいた。親になってからは夫方の祖父母と三世同居で暮らしており、祖父母は仕事を少しだけしている状態なので、子どものことを頼みやすい環境にある。</li> <li>・祖父母世代も、子ども夫婦と一緒に住みたくないという人が多くなっている。</li> <li>・自分たちが子育てするとき、夫の親と同居して、祖父母に大きく頼って子育てしてきた。子どもは三人。次男が家業の農業を継いでいるが、次男夫婦は近くに別居している。</li> </ul>

【話者：民生委員・区長・自治会長】

<p>A 人口移動・Uターン志向・移住支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田は大企業がないから食べていけないというイメージを持っていて、外へ出て行ってしまう若者が多い。実際は働く場所もある程度あるはず。</li> </ul>
-----------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同級生の集まりなどで話すと、都会から戻ってきたい、帰ってきたいという人は結構いる。</li> <li>・若者は大学ないからいったん外に出る、それは仕方ない。戻ってきたいと思っても、雇用の受け皿が少ない。自然災害も少ないし、住環境も良いのだが。</li> <li>・男性は比較的残っているけど、若い女性は少ない印象。</li> </ul>
<p>B 未婚化・結婚観・結婚支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60代以上の世代は、結婚するのが当たり前。適齢期になると、まわりがあれこれ手を差し伸べてくれる人がいた。職場でも世話するような人がいた。今は、“おせっかいおばさん”のような人はいない。やりにくい。</li> <li>・結婚支援は、“おせっかい”する人の適性が大切、どういう人がやるかが重要ではないか。三世代同居が少ないため、時間を持て余している60～70代は多いはず。</li> <li>・良い例（モデル）を知らせていくような取り組みがあればよいと感じる。結婚して子どもをもうけた夫婦、高齢でも幸せな二人、そういう人を紹介していくような取り組みがあれば、若い世代がイメージを持てるのではないか。</li> <li>・檜山地区で50代以上の独身男性がとても多い。高齢の親と同居している人が多く、スーパーなどで買い物していると、高齢の母親と中年の息子が多い。経済的に養えないから結婚できなかったという人（男性）が多い。</li> <li>・県などがマッチングとかをやっているけど、そこへ出て行くのは積極性のある人だけ、出て行けない人が大勢いる。昔は“おせっかいおばさん”がいたのに、それがいなくなってしまった。</li> <li>・昔は青年会で知り合って結婚する人が多かった。山へ行ったり、海へ行ったり、球技大会があったり、若者が交流する場所になっていた。50代くらいまではそういう活動が盛んだった。</li> <li>・“世話焼きさん”に50代くらいの人までは声をかけられていた。高齢の女性がやっており、情報を把握していて家の素性を知っている、そういう人が仲人になり、結婚していく人が多かった。</li> <li>・二ツ井地区では跡取りの男性が地元に残っているが、そういう男性で結婚していない人が多い。結婚していなくて親と一緒に暮らしている。</li> <li>・二ツ井地区で地元に残った仲間、友だちなどはみんな結婚した。跡取りだから結婚する必要があった。お見合いなどが多く、幼稚園の先生とかを地域の仲人さんのような人がいろいろ見ていて、声をかけて仲を取り持っていた。自身は三男だったので、婿さんに入る形で結婚した。</li> <li>・昭和30～40年代は、見合い、親の勧め、親戚の勧めで結婚する人が多かった。能代へは、八峰町から嫁いで来るお嫁さんが多かったのではないかと、仲人的な人がいた。ある人が里帰りして、そこからまた話が広がっていく、人伝い</li> </ul>

	<p>の拡がり。姉が嫁いできて、その後に紹介して、また親族が嫁いで来ることなどがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和 50～60 年代は、結婚していない男性が増え始めていた。親と同居している半農半営の人、半営は水道工事、電気工事、木材関係、道路の整備、公共事業など。メインは農家の仕事。所得が少ないし、仕事が大変で、女性は嫁いだら大変になるから嫁ぎ先として嫌われた。また、お見合いで結婚する人が少なくなってきて、恋愛結婚が増えていった。顔も形も何もわからないまま結婚するようなお見合いに対して否定的な意識が強まっていったのではないか。喫茶店やお酒を飲む店もあり、青年会での活動やグループ交際などもとても盛んだった。</li> <li>・現代は、男女の出会いが変わってしまった。お酒を飲まない若者が増えていて、交流へつながらない。楽しみ方が変わってきていて、若い人が休日でも家で過ごしていて外へあまり出たがらない傾向。グループ交際や、グループで出かけるとか、そういうことはあまり聞かない。</li> </ul>
<p>C 出産・子育て環境・子育て支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二ツ井地区は子どもが少なくなっている。若い人が少なくなっている。</li> <li>・子ども数は大きく減少している。120 世帯で、30 年前は小学生が 20 名くらいいたが、今は 7 名しかいない。</li> <li>・子どもの遊び場所、屋内の遊び場所が少ない。寒いし、天候も悪いから屋内で良いのだが、少ない。屋外の遊び場所は結構ある。</li> </ul>
<p>D 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70～80 代はボランティアにも積極的に地域愛が強い。60 代以下はそういった意識が弱い。人のために、地域のために、という教育も必要ではないか。</li> <li>・地域の役員などをやりたがらない、ボランティアとかにも来たがらない傾向。かつては、子どものためにやるとか、我慢してやる人が多かった。今は、我慢して行うということがすべきでないという意識が強まっている。</li> <li>・離婚して戻ってきた女性、子どもを連れて同居している人は檜山地区に結構いる。</li> <li>・能代市街の工業団地で働いている人が、二ツ井にとどまらず、能代市街地へ住むようになってしまう。</li> <li>・二ツ井地区には若い女性の働く場所がとくにない。かつては縫製の工場が多かったが今は 1 箇所だけ。</li> <li>・林業の仕事は二ツ井地区の中心的位置を占めてきたが、30 年くらい前に天然杉を切らなくなった頃から値段も下がり、林業が厳しくなってきた。</li> <li>・若い人が働く場所が必要。若い人がいないと活気がない。</li> <li>・昔も外から働きに入ってくる人は少なかったが、嫁さんは近隣から来ている人が多かった、鷹ノ巣、大館など。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーナツ化というか、能代市街地の空洞化が進んでいる。厚生医療センターが街の中心にあったが、郊外へ移転してしまい、人も中心街から離れてしまった。</li> <li>・田舎であるが、都会的な考えが広がり、周辺事情がわからなくなってきた。景色は変わらないが、人が変わった。</li> <li>・能代の地域性は“奥手”。</li> </ul>
<p>E 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50・60代以上の男性は、家事もしない、二言目には“女だから”と言う男が多い。そういう親をみていると、この地域で嫁になろうとは思わない。</li> <li>・“長男意識”を小さい頃から洗脳のように植え付けられている家庭も多い。独身で親と同居している多くは長男。</li> <li>・ニツ井地区では、若い人は男よりも女の方が外へ出ていってしまっている。男の方は跡取りということで地元へ残っている人が多い。</li> <li>・ニツ井地区はかつて、三世代で暮らしている家族が多くて、祖父母が孫の世話をしている家族も多かった。大人が4人いて、誰かが働き、誰かが子どもの面倒をみるような暮らしだったが、今は大人が2人だけだと働きながら子どもの面倒をみなければならぬから大変になっている。</li> <li>・能代は、三世代同居は少ないと感じている。</li> <li>・昭和30～40年代は、三世代同居がかなり多かった。ほとんど父方の親と同居。長男、一人娘、第一子、跡を継ぐような意識が昔は強かった。子どもの面倒は祖父母がよくみていた。旧市街地は木材の製材や加工、米代川の向こうの郊外は農業、そのため、旧市街地では母親は木材を手伝いながら子育て、郊外では母親は農家の手伝いをしながら子育てをしていた。</li> <li>・昭和50～60年代は、三世代同居は減少してきて、核家族が増えてきた。女性が家にいて子育てしている人も多かった。男が仕事で女が家で家事や子育て、情報も少ないから、大変でもそれが当たり前で仕方ないという意識だったのでないか。</li> <li>・現代は、核家族の子育て世帯が多い。父親が子育てに参加する人は増えていくと感じる。近くに住んでいる親（祖父母）に頼らない、かかわりをそんなにもたない傾向。サポートしてもらっている家庭は少ないのではないかと。姑に何か言われたりするのを嫌がる人も多い。でも、子育て中であっても、自分の時間が欲しい、やりたいことがあると、子育てが負担大きいと感じてしまう。</li> </ul>

【話者：地域内保育関係者】

<p>A 人口移動・Uターン志向・移住支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の職員のうち、半分くらいは県内の保育士養成校の出身である。</li> <li>・男の人が地元へ残って、お嫁さんが来るのが多いという地域。</li> <li>・若い人が大きく減少している。</li> <li>・地元でやりたい仕事はできない、秋田にはない、ということで出て行く若者が多い。</li> <li>・今の親は、子どもに好きなことをさせてあげたいと思う。</li> <li>・二ツ井地区の子育て支援センターを利用している人は、夫が地元の人で、大館や県南から嫁に来たという人たち。</li> <li>・二ツ井地区の地元に残っている同級生などは、公務員、会社勤め、左官屋・ペンキ屋の自営業など。</li> <li>・外へ進学して、地元へ戻って就職という人は少ない。残っている人は、もともと地元で就職という形が多い。</li> </ul>
<p>B 未婚化・結婚観・結婚支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元に残っていても結婚していない人が多い。</li> <li>・出会いの場がない。マッチングあってもそこへ出て行かない。</li> <li>・結婚していない人は親と同居している人がほとんど。</li> <li>・結婚式の二次会で知り合って結婚する保育士が多い。</li> <li>・20代は婚活には行かない、イベントとかには行きたがらない。20代は自分で見つけたいと思っている。30代以上になって厳しいと感じて、イベントなどへ行くようになるのではないかな。</li> <li>・職場以外で人と交流できるような機会が少ない。独身の人が、職場以外で人と出会い、交流していけるような機会が増えることが、結婚へつながっていくのではないかな。</li> <li>・能代で青年会活動があった。職場のスポーツ活動、サークル活動、野球、バスケットボール、バレーボールなど、1990年代後半まであった。そこで出会って結婚する人も多かった。</li> <li>・昔は、“世話焼く人”が保育園へ見に来ていたこと多かった。保育士さんをお嫁さん候補として探しに来ていた。</li> <li>・若者が結婚していないのは、経済的に苦しいことが大きいのではないかな。</li> <li>・二ツ井地区では男の方が未婚の人が多い。</li> <li>・女性は社交的な人でもそうでない人でも結婚している印象あるが、男性は社交的な人は結婚しているが、そうでない人は未婚の人が多い印象。</li> <li>・保育士さんなどは、商工会のイベントやお店の婚活イベントへ参加している人もいる。町のイベントで結婚したいという人たちもいるのではないかな。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・息子に婚活してほしい母親が、背中を押そうとしても上手くいかない。</li> </ul>
<p>C 出産・子育て環境・ 子育て支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所開所時間の伸長や延長保育の実施も早かった。</li> <li>・学校の先生は産休・育休を取りやすいので、子ども三人産んでいる人が多い。</li> <li>・能代と二ツ井の中間の保育所では、子どもの数は大きく減少しているが、“気になる子”は減っていないという感覚。</li> <li>・自分の好きなように子育てしたいと思う親が多いが、実際は大変になる。</li> <li>・子ども希望数は3人の家庭が多いが、実際は2人という世帯が多い。</li> <li>・保育所として、親を支援していくことの大切さを感じている。</li> <li>・市内に産科はあるが1箇所なので、里帰り出産などが混んでいると断られてしまうことがある。</li> <li>・二ツ井地区に保育所が二箇所。地区の行事が忙しい土曜日は出ずっぱりのようになってしまう。土曜日は通常保育として行っている。</li> <li>・法人として保育園を維持できるかという問題がある。いずれ法人合併も検討しなければいけないのかもしれない。</li> <li>・二ツ井地区には保育所（こども園）が2箇所あるが、保育士不足で0歳児で預かれない子がいて、市内の他の園で受け入れている。保育士が集まりにくい。フルタイムだと厳しい、パートで短時間なら、という人はいる。</li> <li>・二ツ井地区には産科の病院はなく、能代市街の病院か、北秋田の市民病院へ行く人もいる。病児保育も能代市街の保育園になってしまう。</li> <li>・二ツ井地区の子育て支援センターは、平日の利用は5組くらい。子ども数の減少もあるし、保育所を利用して働く母親も増えているからではないか。10年くらい前までは祖母が連れてくる子どもも多かった。</li> <li>・夫が公務員だと、妻が働かずに子どもを育てられて、支援センターを利用するという家庭もあるが、夫が普通の仕事だと妻が働かざるを得ない状況の人が多い。</li> <li>・能代市街地の方は、子育て支援センターを利用している家庭は結構ある。夫が東北電力、国土交通省などで働いている転勤族で、妻が支援センターを利用している。</li> <li>・外で遊べる遊具、アスレチックや水で遊べる環境などが、もっとあったら良いね、という声が多い。</li> <li>・二ツ井地区には病児保育がなく、能代の病児保育を利用している人もいるので、病児保育があれば良いね、という声が多い。</li> <li>・子どもの数は2人が多い。3人の方が1人よりも多い。子ども3人いる家庭は、祖父母と同居している家庭や経済的に余裕ある家庭。</li> </ul>

<p>D 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化や核家族化で人間関係の希薄を強く感じる。</li> <li>・二ツ井は高齢化率が高い。人口 8,000 人くらいいるのに子どもは 20 人くらいしか生まれていない。</li> <li>・子どもが生まれて、二ツ井から能代市街へ移り住む人がある。親の職場に近いことや祖父母と同居したくない人、子どもの数が少ないことへの不安もある。</li> <li>・一度退職すると、フルタイムで戻りたいという人はほとんどいない。パート（保育士）で働きたいという人は多い。</li> <li>・二ツ井地区は、まわりの目を気にする人が多い。人目をとても気にする地域である。</li> <li>・高齢単身世帯で、男性だと、社会と接点がなくなりやすい。</li> <li>・若者が戻ってくるのは盆正月と厄払い。かつては 42 歳の厄払いのときに旅行へ行ったりしていた。</li> <li>・二ツ井地区へ外から嫁に来た人たちは、地域の中で気にされたり、話題にされたりすると強く感じているよう。外から来た人は、地域のつながりが強いと感じるようだ。</li> </ul>
<p>E 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二ツ井地区では、同居していても食事は別という家庭もある。</li> <li>・自分が子育てしていたときには、祖父母を頼っていて、送り迎えなどもしてもらったことが多かった。今は、自分の子どもを祖父母にみてもらいたいと思わない人が多い。</li> <li>・祖父母を頼らない親が増えている。子どもが具合悪くなくても、親の職場へ連絡してほしいという人が多い。</li> <li>・祖父母にいろいろ干渉されたくなくて、関係が希薄になっている。</li> <li>・多くの祖父母は働いている。核家族で暮らしている子育て家庭が多いが、祖父母からも子どもにいろいろ伝えてほしいことがある。</li> <li>・市内で一箇所だけ、祖父母の送り迎えの多い保育所がある。市内の中心部。それ以外の保育所では、祖父母が送り迎えにかかわるのは 1 割くらい。</li> <li>・子どもが三人以上の家庭は、祖父母と同居しているか、祖父母が近くに住んでいる家庭が多い。子どもが一人か二人の家庭は、祖父母と同居していません、祖父母が近所に住んでいない家庭が多い。</li> <li>・祖父母の送り迎えは少なくなっている。働いている祖父母が多い。</li> <li>・今の親は、自分たちの親（祖父母）に頼りたくないという意識が強くて、早い段階から預けるといいう家庭が増えている。そのため、0・1・2 歳児が増えている。</li> <li>・もともと祖父母と同居していて、途中から別居し、アパートや市営住宅に住む人もいます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが子育てするとき、夫の親と同居して、祖父母に大きく頼って子育てしてきた。子どもは二人。長女は県外、長男は未婚で同居している。</li> <li>・3分の1くらいはひとり親家庭というときもあった。離婚して戻ってきた人は、実家で同居して、親（祖父母）が助けている家庭も多い。</li> <li>・祖父母と同居していない子が多くなっている。近くに住んでいても、祖父母が仕事をしている人も多いためか、あまり子育てにかかわっていないところも多い。もともと同居していたが、合わずに別居になったという家庭もある。</li> <li>・二ツ井地区の子育て支援センターを利用している母親は、夫には満足している人が多く、子育てへの協力も比較的あるようだ。夫の親との関係への不満はよく聞く。</li> </ul>
--	---

【話者：管内教育関係者】

<p>A 人口移動・Uターン志向・移住支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと地元志向が弱かったが、近年は地元志向が少し強まっているのを感じている。秋田大学の志望者は10年前と比べて倍増している。</li> <li>・8割が国公立志望、教員、医療系、公務員などが多い。就職希望者は以前よりも増えていて、10～15%くらい。</li> <li>・進学と就職を併せて県内に残るのは2割くらい。年によってばらつきあるが、女子の方がやや多いのではないか。8割が県外へ出て行くうち、その後に県内へ戻ってくる子はかなり少ない、公務員、教員、銀行など一部のみ。県外進学で、一番多いのは首都圏。次は仙台、あとは北東北でばらける。北海道や新潟も比較的多い。</li> <li>・昔に比べると、とにかく外へ出たいという強い意識をもつ子は少なくなったように感じる。</li> <li>・進学が約6割、就職が約4割、進学は大学・短大と専門学校が半々くらい、専門学校は医療・看護・保育・理美容などで女子がほとんど。大学は県外がほとんどで、専門学校は県内と仙台が多い。就職は、男子は県内の方が多く、女子は県外の方が多い。</li> <li>・学生は、事務を希望する子が一定数いるが、県内に事務系の求人がほとんどないため、県外（首都圏）へ就職することになり、女子の県外流出へつながってしまう。事務系の入れ替わりがあまりないのかもしれない。</li> <li>・就職は、ある程度希望が通りやすく、男子の県内就職も地元を志向している学生。外へ進学して、就職時に地元へ戻ってきているのは看護・保育などではないか。看護・保育で県内へ進学した学生は県内で就職しているような印象。看護・保育への進学は女子が圧倒的に多い。</li> </ul>
-----------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足りないものは、事務系の求人と、看護系の学校。しらかみ看護はあるが、もう一つくらいあればよい。</li> </ul>
B 未婚化・結婚観・結婚支援など	—
C 出産・子育て環境・子育て支援など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子ども数は大きく減少しているが、学校の定員数はここ 10 年くらいほとんど変わっていない。</li> </ul>
D 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学校の先生と話をしていると、能代は地元志向がすごく弱く感じてきた。県内の他地域、湯沢や大曲などの方は地元志向がとても強い。</li> <li>・この地域はもともと裕福だった。秋田大学へ行くとしても、ひとり暮らしをさせて出すことになるので、それなら仙台や東京でも、という意識になる。親も進学で県外へ出た人が多い。</li> <li>・高校で 1・2 年時に地域の探求授業を実施（地域資源や課題の認識。地元愛の醸成 etc.）。</li> <li>・秋田大学に占める県北地域の学生は伝統的に少ない。県庁も県北地域出身者が少ない。教員も県北地域出身者の先生は少ない。</li> <li>・以前、鹿角で勤務していたときは、集まって飲みに行くことが多かった。それに比べると、能代では少ないかも。</li> </ul>
E 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路にあたり、親からの条件提示が多いのは女子。地元に残ってほしいと希望されるのは女子が多い。近年は男子に対しても、親が地元に残るよう希望するケースも目立つようになってきた。</li> <li>・時代に逆行している気もするが、近年、親の意向はとても強くなっていると感じる。</li> <li>・中学時代から進学・就職のことを考える機会をもってきているので、そういう中で、親からすり込まれている子が多い。</li> <li>・親のスタンスとして、できれば地元に残ってほしいけれど、将来のことを考えると、外へ出た方がよいという傾向。</li> <li>・生徒をみていると、核家族が多いという印象はもっていた。祖父母の送迎なども少しあるが、親の方が多い。</li> <li>・親のスタンスとして、1 回は子どもに外へ出てみなさい、しばらく働いたら戻ってきたら、という考えの人も多いが、その時の受け皿が少ないのではないかと感じている。</li> <li>・三世同居している学生は少ない。母子家庭は増えている印象。</li> <li>・男女にかかわらず、親の意向は強いと感じる。</li> </ul>

【話者：結婚支援関係者】

<p>A 人口移動・Uターン志向・移住支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者に、地元で魅力的な仕事があることをあまり知られていない気がする。高校生とかに、地元で働いている人が話をし、情報提供していくような機会が必要ではないか。</li> <li>・高校生の女子でも、都会へ出ていきたいキャリア志向の子もいれば、仕事は地元でそこそこで結婚して子どもをもちたい子も多い。</li> <li>・同級生では、女性は3分の1くらい地元に残っている、3分の2は都会へ出てしまっている。男性は残っている人が多い、とくに長男。一度外へ出て、後になって、親の具合が悪くなって戻ってきたり、都会に疲れて戻ってきた人もいる。</li> </ul>
<p>B 未婚化・結婚観・結婚支援など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40歳以上の独身はかなり多くいる。</li> <li>・結婚の“おせっかい”とかをやりにくい雰囲気がある。</li> <li>・婚活イベントをNPO法人として6年前から年に1回行っているが、人が集まらない、とくに女性が集まりにくい。</li> <li>・知り合いに会うかもとか、そういう意識が働いて来にくいのではないかな。半強制的ではないが、誰かが背中を押さないと腰が上がりを感じている。</li> <li>・イベント参加者の年齢はとくに決めていないので、普段は30代以上が多いが、バーベキューやヨガのイベントを行ったときには20代が多く参加した。若い人たちに出会いの場は少ないと感じているはず。</li> <li>・婚活イベントへ来る人は能代市内、八峰町、三種町などが多い。来る人たちは、出会いの場がないと言う人が多い。</li> <li>・男女10名ずつのイベントで、3～5カップルくらい成立するが、成婚しているか否かについては追跡していない。</li> <li>・少子化ということを考えると20代の方がイベントに参加してほしいと思うが、40代以上の人を支援していくことも必要ではないか。</li> <li>・アンケートで、どういうイベントなら婚活イベントに行きたいか？という質問をすると、バーベキューなどの回答が多い。</li> <li>・“婚活”をあまり強調しない形でのイベントが必要かも。</li> <li>・6～7年前から年に1回、婚活イベントを行っているが、市内からの参加者は半分いるかどうかで、近隣の市町村からの参加者が多い。</li> <li>・婚活イベントの参加者はこれまで7～15人くらいで実施しているが、女性が集まりにくい、男性は集まる。</li> <li>・結婚していない人は、男性ではお金がない、経済的に自信をもてない人が多いという印象。女性ではしっかりしている人、趣味も多く活動的な人が多いと</li> </ul>

	<p>いう印象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、家と会社の往復だけをしている人が多い、それだと出会いはない。飲み会が激減した。</li> <li>・地元の人で、婚活イベントへ参加してくれる人を増やすのはとても難しい。</li> <li>・女性は、自然な出会いを望む人が多いし、30代後半になると諦めてしまう人が増える。男性は、参加すれば相手は見つかりと楽観している人が多いが、実際はなかなか上手くいかない。男性の魅力が足りないのかもしれないが、女性はもう少しハードルを下げしてほしい。</li> <li>・男性は、職場で声をかけていくと、イベントへ参加しやすいのではないかと。</li> <li>・婚活イベント時に、“一押し”が上手くいったということがある。何度も参加している人に合いそうな人がいると助言したり、教育関係者同士で合いそうだと事前にアドバイスしたり、そういうときにカップルが成立した。</li> <li>・10年前から年に1回、食事を中心とした婚活のイベントを実施してきたが、同じ事の繰り返しでマンネリ化していたことや、女性の集まりが悪くなってきたので、何か楽しいイベントに変えたいと思った。二ツ井の特徴を活かし、参加して楽しいイベントをと考えて、昨年度からカヌーとバーベキューのイベントにした結果、予定を超える応募があり、男女15人ずつで実施した。参加者からも好評で、アクティブな形で続けてほしいという意見が多かった。</li> <li>・イベントへの参加者は、男性は30代後半、女性は30代が多く、また女性は市内参加者が少なく大館、秋田市が多いのに対し、男性は地域がばらけている。</li> <li>・イベントに集まっても男性はあまり話しかけない。仲間で来れば固まってしまう。</li> <li>・イベント時にはカップル成立までやらない。連絡先交換など、第一歩の場にしてもらうという考え。</li> <li>・イベント後のアンケートで、マッチングをしなかったことが良かった、という回答もあった。マッチングをしないことで、いろんな形で交流をしていける。スタッフの中にはマッチングまでした方がよいという意見もあったが、連絡先を交換してその後の交流をお膳立てするという形の方がよいのではないかとというふうに考えた。</li> <li>・婚活イベントにくるのは、自分から恋愛（異性との交際）に動けない人なので、支援してサポートしていくことが必要。</li> <li>・イベント実施にあたりセミナーとセットで行っている。昨年は男性だけセミナーを実施し、今年は男女ともにセミナーを実施して、マッチング成功率も上がった。</li> </ul>
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マッチング成功で終わりではない。交際して、結婚して、子どもをもって、地域の人口増加へつなげていくことが最終目的。</li> <li>・婚活イベントでのカップル成立後の追跡は難しい。だけど、マッチングがゴールではないから追跡しなければならない。でも直接に追跡することはプライバシーの侵害になるからできない。さまざまな試みをしている。</li> <li>・能代市にも、結婚したいけれど、自分から行動しない人は大勢いると感じている。</li> <li>・パワハラにならないぎりぎりのところで、しょうがねえな、言われたから行くか、という形で掘り起こしていくしかない。申し訳ないけれど来てくれると助かるんだよね、というような誘い方をして、上手く腰を上げてもらうようにできれば。</li> </ul>
C 出産・子育て環境・子育て支援など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔、自分たちが子どもの頃は子どもも多くて、まちにも活気があった。</li> </ul>
D 地域（自然・産業・歴史・集落・行事など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能代が田舎という感覚はない。地理的には田舎なのに、田舎という意識を持っていない。</li> <li>・相談に来る人の中に、離婚していて、親と同居していない人が多い。母子家庭などが多いのではないかな。</li> <li>・能代は賃貸住宅が多い。家賃などは安くない。都会的なイメージ。</li> <li>・婚活ではないイベントで、大館から来る人は多い。逆に、大館でイベントがあっても、能代の人あまり行かないのではないかな。</li> <li>・二ツ井地区はおおらかな人が多い。前勤務地の鹿角は強い人が多かった。</li> <li>・二ツ井の商店街は 20 くらいのお店あるが、後継者のいない店もある。自分の代で終わり、という人もいるし、若い世代は何とかしたいという人もいる。このままではマズイ、ヤバイ、という危機感はある。</li> <li>・年祝いは、女性が 33 歳のとき、男性が酒を振る舞ったり食事をご馳走したりして、男性が 42 歳のとき、女性が酒を振る舞ったり食事をご馳走したりしていたが、参加者が少なくて近年はなくなってしまった。</li> <li>・人口当たりの美容室、秋田県は全国で最も多い。能代市は秋田県内で最も多い。女が強い、人に使われるよりは自分で、という気質。県北と県南は文化も気質も違う。</li> <li>・能代は、知り合いに婚活イベントへ行っていたことを見られたり、知られたりしてしまうと、あの人婚活イベントへ行っていた、とすぐ話にされてしまうような地域。</li> <li>・能代の地域性は“見栄っ張り”。廃業は少ないけれど倒産は多い。岩手とは逆の傾向。誰にも相談できない。</li> </ul>

E 家族（同別居・家意識・祖父母のかかわりなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離婚者では、子どもの学校を変えたくないので実家に戻らないという人が多い。自立しているというだけでなく、子どものことを考える人が多い。</li> <li>・大学4年間は県外へ出たが、地元へ戻って家業を継いでいる。小さい頃から、跡取りだからということを親から言われてきたことが大きい。</li> <li>・女の子だけの姉妹の場合、どちらかが先に結婚すると、残された方は親のことや家のことがあって、結婚相手を選ぶことが難しくなる。</li> <li>・長男として、跡取りとしての意識を持つ人も結構いる。そういう人で結婚していない、結婚できていない人が多い。</li> <li>・結婚した夫婦は、近くに家を建てて住む人が多い。祖父母世代が、一緒に住みたくないという人も多い。</li> <li>・二ツ井地区に残っている人は、親と同居している人と、アパートなどで暮らしている人、半々くらいではないか。同居問題あるので、近くでもアパートに住むという考えになる。</li> </ul>
--------------------------	---

#### （４）少子化や人口減少に関する社会文化的要因の影響に関する考察

－鹿角市・男鹿市・仙北市・三種町・にかほ市との比較－

##### （ア）地域社会

ここでは、フィールドワークの結果を踏まえ、能代市における少子化や人口減少に関して社会文化的要因がどのように影響しているのかについて考察していくことにしたい。その際、昨年度にフィールドワークを実施した鹿角市、男鹿市、仙北市、三種町、にかほ市と比較しながらみていくこととする。

まず、能代市における都市的な人間関係、地域社会における連帯感、若者の地元志向、家族（親）による子の進路決定への影響などについて考察したい。旧二ツ井町では若干異なるものの、能代市全体として把握するならば、子どもの自由を尊重し、必要以上に束縛せず、人に見えるだけ頼らない、家族にも迷惑をかけたくない、自立心の強い価値観が拮がっているように受けとめられる。

例えば、子どもの高校卒業時の進路決定時における親のスタンスとして、できれば地元に残ってほしいけれど、子どもの将来のことを考えると、一度は外へ出た方が良いのではないかと、という親が多い。離婚した母親が、子どもの学校を変えさせたくないで実家に帰らないという理由が目立つという指摘にもみられるように、子どものことを第一に優先して考えるという姿勢は賞賛に値する。しかし、高校卒業時に地元を離れ、県外へ流出した若者が、大学卒業後やその後のタイミングにおいてUターンし、地元へ戻ってくるということは多くの地域におい

てなかなか難しいのが現状である。そのような中で、子どもの将来を考えて外へ送り出しやすい価値観が存在することは、結果的に、若者の人口流出を促進させてしまう可能性が高い。

仙北市では、お祭りへの情熱が地域への強い愛着につながっており、地域における人間関係のつながりを濃密なものとしながら、地域の伝統を守ることの大切さ、地元志向の強さを生み出し、若者が地元へとどまる促進要因となっていた。さらに、大人の郷土愛の強さが、高校卒業時の進路決定時に、親が子どもに地元へ残ることを求め、多くの子どもがそれに沿う決定をする状況となっていた。

また、鹿角市では、地域社会における伝統的な人間関係の強さが今もなお維持されており、結婚と同時に三世代家族で暮らしていくことを当然とする価値観、厄払い・年祝いの行事や地域のお祭りへの参加などを通じて同年代の人たちとの交友関係が持続・再強化されやすい環境など、地域社会における横のつながりが若者の交流や異性との出会いという形でも好影響を与えていた。

現代において、個人化や人間関係の稀薄化が懸念される中、仙北市や鹿角市のように地域社会の連帯感が強いことは大きな強みとなる。その一方で、普段の生活の中で気を配ることが多く、休日にも役割を担い活動しなければならないなど、自由で開放的な暮らしを妨げる側面もあろう。また、子どもの進路決定時に、親の意向がとて強く働いてしまうということも、評価の難しい部分である。若者が地元へ残ることにつながっているという側面では良いのかもしれないが、若者の可能性ある未来の選択肢を狭めてしまっている可能性も否定できない。

能代市のように、子どもの自由をできるだけ尊重し、他地域に比べて地元志向が弱いながらも、比較的緩やかなつながりの人間関係で形成される地域社会は、決して批判されるべき環境ではない。しかし、少子化や人口減少という問題と関連させるとき、それは、若者の流出を通じて人口減少を加速させる要因になるとともに、子どもを生み育てていく若い男女の減少へとつながっているのではないだろうか。

## (イ) 家族

---

次に、前節で言及した“子どもにかかわる（子育てにかかわる）大人の数が増えている”という能代市の地域特性について考察したい。前述のように、能代市では、かつて父・母・祖父・祖母の大人4人のうちの誰かが子どもの面倒を見ることができる家族が多かったが、時代とともに、その家族環境が失われつつある実態を明らかにしてきた。現代では、夫婦共働きの核家族でありながら祖父母に子育てを頼らない（頼れない）という家族が増加しており、それは、子育て負担感の増大や希望子ども数（3人以上）を実現できない壁となっている可能性が懸念される。

能代市と隣接する三種町では、以前よりも結婚時の別居が増えてはきたが、子育て家庭の多くが祖父母と同居・近居しており、祖父母からの子育てに関する援助・サポートを受けて生活

していた。三種町は能代市と同様に女性の就業率が高いという特徴をもつが、女性（母親）が働いているので、祖父母のサポートが得られなければ多くの子どもは育てられないと認識されている。実際、保育所では夕方の早い時間に祖父母が迎えに来る家庭も多く、一時保育や病児保育のニーズは少ない。

また、鹿角市では、途中同居があまりみられず、結婚時からの同居が一般的で、この三世代同居による世代間共助を基盤として女性の就業が可能になっており、家族皆で助け合い、子育ても含めて支え合う家族の暮らしが成り立っていた。以前よりは減少しているものの、祖父母による保育所や学校の送迎も多いという。

現代において、これまで家族が担ってきた機能の外部化が顕著であるが、子育てに関する部分も例外ではない。核家族の増加や祖父母の就労増加などにより、家族の子育て機能が弱体化した部分を、多くの自治体の子育て支援の拡充という施策で補ってきたのである。能代市においても、多様な子育て支援施策で子育て家庭をサポートしてきたといえよう。

しかし、日々の生活の中で、家族などインフォーマルな機能が重要視される部分や家族でなければ十分に果たせない役割もあるのではないだろうか。子育て支援の必要性・重要性が高いことは言うまでもないが、“家族の力+充実した子育て支援”が揃っている方が、より子育て負担感を軽減でき、希望する子ども数を実現しやすい環境となるように思われる。

#### （ウ）行政担当者と地域住民の間における認識・意識のズレ

---

最後に、本節のテーマから少し外れるが、フィールドワークを通じて、能代市と鹿角市・男鹿市・仙北市・三種町・にかほ市との比較から強く感じたことについて言及したい。それは、少子化の要因や結婚支援を実施することに対する“行政担当者と地域住民の間における認識・意識のズレ”についてである。

昨年度に実施した五市町でのフィールドワークを通じて強く感じたことは、地域で生活を営む人たちの“少子化に関する的確な認識”である。なぜ子ども数が減っているのか、出生数が減少しているのかということについて、“若者が地元から出て行ってしまい戻ってこない”、“地元には結婚していない人がとても多くなっている”と訴えていた。すなわち、若年層の人口流出と著しい未婚化が、自分たちの地域における少子化や人口減少の主要因であることを地域住民の方々は的確に認識していた。

それに比べると、五市町の行政担当者の中には、少子化に関する認識が十分ではない、的確とは思えない部分を感じたことは否定しがたい事実である。もちろん、それは行政担当者の方々への責任ではなく、我々研究者の正確な情報発信が足りていないことや、少子化の主要因は待機児童の問題に象徴されるような子育て支援や女性の仕事と子育ての両立への支援が十分でないことにあるというような、実態とは異なる情報がマスコミ等から報道され続けていることに要因がある。とはいえ、地域住民の方々は的確に認識していることを鑑みると、行政担当者にお

いても地域の実情を適切に捉えようとする努力が不足している部分もあるのではないだろうか。

近年、多くの研究者が指摘するように、日本の少子化の主要因は「未婚化」である。少子化について「未婚化」と「夫婦出生力の低下」に要因分解すると、8~9割が未婚化であり、夫婦出生力の低下は1~2割に過ぎない。ここで言う少子化とは、合計特殊出生率を指標としているため、出生数ということも含めて考えると、多くの地方においては、若者の人口流出についても対策を講じなければならない。整理すると、「若者の人口流出」・「未婚化」・「夫婦出生力の低下」という三つの側面において考える必要があり、その対策としては、「地域における雇用の確保や移住・定住支援」・「結婚支援」・「子育て支援や働き方への取り組み」といった内容が対策の柱となる。

ここで問題になるのは、その比重であるが、理解を促すために次のような表現を用いて説明する。例えば、ある自治体では、「若者の人口流出=4」・「未婚化=4」・「夫婦出生力の低下=2」という要因でありながら、「地域における雇用の確保や移住・定住支援=2」・「結婚支援=1」・「子育て支援や働き方への取り組み=7」という予算配分で施策を行っている。なぜこのような仮の数字で表現したかといえば、少子化や人口減少における要因と対策の重点にミスマッチが生じていることを理解してほしいと考えた故である。

程度の差はあれども、多くの自治体において上記のようなミスマッチが起きており、それが、少子化や人口減少の対策を行っていないながら状況が改善しない大きな要因と考えられる。鹿角市・男鹿市・仙北市・三種町・にかほ市においても、少子化対策の実質的な柱は「子育て支援」と位置づけられ、「地域における雇用の確保や移住・定住支援」についてはその必要性を認識し、さまざまな施策で取り組んでいるように感じられたが、「結婚支援」については、少子化対策の中で占める比重が限りなく小さい自治体や、必要性は認識しているものの行政が結婚支援を行うことに関して積極的ではなく、否定的な見解をもっている自治体もみられた。

行政が未婚化対策、結婚支援を積極的に行うことに対する躊躇・迷いについては、理解できる部分もある。結婚という個人の自由な選択・決定に基づいて行われるべきことに対し、公が税金を使って積極的に介入することへの忌避感を抱く人は少なくない。ここで難しい問題となるのは、多くの地域において、未婚化に歯止めをかけない限り、少子化と人口減少を是正することができない、緩和させることすら困難になってしまうという現実である。結婚支援を積極的に行い、少子化や人口減少を緩和させ、地域社会が存続していく道を目指すのか、それとも、これまで通りに結婚への積極的な支援（介入）は避け、少子化や人口減少に可能な範囲で対処しながら、将来的に地域社会が消滅することを受け入れる覚悟を持つのか、今、多くの自治体に難しい選択が迫られているが、大切なのは、地域住民の多くがどちらの“道”を望んでいるかということであろう。

先述のように、五市町の地域住民と行政担当者の間には少子化に関する意識のズレが少なからず感じられたが、能代市における地域住民と行政担当者の間には少子化に関する認識・意識のズレをほとんど感じなかったと言ってよい。今回のヒアリングでお話をうかがった能代市における地域住民の多くは、若者が外へ出て行ってしまふことや地元に残っている人で結婚して

いない人の多いことが少子化・人口減少において重要な問題であると認識していた。そして、能代市の行政担当者においても、今後の少子化・人口減少対策における戦略方針として、これまで十分に行ってこなかった「若者の人口流出」と「未婚化」に対してどのような支援が求められているのか、どのようなアプローチが望ましいのか、そこに焦点をあてて施策を検討し、実施していこうとする姿勢を示している。これは、少子化や人口減少における要因と対策の重点におけるミスマッチを乗り越える可能性を有しているのではないだろうか。

## (5) フィールドワークを通じて得られた知見

これまでの整理や考察を踏まえ、フィールドワークを通じて得られた知見を簡潔に述べていくこととする。その際、「若者の定住支援」と「結婚支援」の二つについて言及していくことにしたい。

まず、「若者の定住支援」における課題として、高校卒業時に県内就職を希望しながらそれを実現できず、県外へと就職してしまう女子が多いことへの対策である。とくに、事務系の求人不足が強く指摘されていた。銀行などでも新規採用がほとんど行われていないと言われる中で、この厳しい状況を改善していくには、高校生を事務として新規採用した企業へ何らかの形で補助を行うなど、大胆な施策が必要かもしれない。

能代市における男女別人口をみると、近年の20～30歳代において男女人口はほぼ拮抗しているが、配偶関係別でみると、未婚者は男性が著しく多く、離別者は女性が著しく多くなっている。ヒアリングにおいて指摘されていた、未婚の男性が多いことや、離婚して子どもを連れて地元へ戻ってくる女性が多いことなどと整合的な数値である。一般的に、未婚男性と離別女性の再婚が稀少であることを鑑みると、能代市において、未婚女性との結婚を希望する男性にとっては非常に厳しい男女バランスとなっている。このような状況をみると、上述のような形で、地元への就職を望む女性の希望を実現できるように支援していくことは、結婚支援としても求められている対応といえるのではないだろうか。

また、大学卒業時のUターン、大卒後に県外で一定期間働いた後でのUターン、都会に疲れて故郷へ帰ることを望んでのUターン、親の看病など家族的理由によるUターンなど、人はさまざまな理由や思いがけないタイミングで地元へ戻ることを考えるように思われる。このような多様な世代のUターン希望者にどのような形で情報提供していくことが望ましいのか、地元企業との接点をどのように作っていくことができるのか、多角的な視点から検討していくことが必要になってくると考える。

次に、「結婚支援」における課題としては、婚活イベントの実施方法に関する多様性が求められているように思われる。能代市では、これまでもさまざまな団体によって婚活イベントが実施されているが、そこで浮き彫りになっている問題もある。女性が集まりにくいこと、地

元の能代市民の参加が多くないこと、20代の参加者が少ないこと、また、地域特性として、婚活イベントへ行っていたことを話題にされやすく、それを気にして参加を躊躇してしまうのではないかということも懸念されていた。このような状況をみると、女性も参加しやすいテーマの設定を考案することや、マッチングを行って直接に男女交際へとつながるような婚活イベントもあれば、“婚活”という言葉を入れない形でマッチングも行わず、男女の出会い・仲間づくりのきっかけとしてのイベントも実施するなど、能代市全体として多様性のある婚活イベントを実施する環境の醸成が有効ではないだろうか。

また、男性の未婚者が多い背景として、経済的に結婚できない男性の存在が指摘されていた。結婚に関する経済的支援の必要性については、これまでも多くの場面で言及されているが、その選択肢として何が適切なのかというのは難しい課題である。近年、結婚支援センターへの登録補助を行っている自治体も多いが、もちろんそれだけで十分とはいえない。能代市では、結婚・子育て祝い金事業を実施しているが、結婚して新たな生活をスタートすることへの支援も検討に値するように思われる。

「結婚新生活支援事業」は、夫婦共に婚姻日における年齢が34歳以下かつ世帯所得340万円未満の新規に婚姻した世帯へ1世帯あたり30万円（国が15万円補助）を上限とし、補助対象を、婚姻に伴う「住宅取得費用または住宅賃借費用」と「引越費用」として支援を行う事業であり、現在、一定数の自治体を実施しているが、能代市では行われていない。例えば、これをそのまま実施するだけでなく、「夫婦共に婚姻日における年齢が29歳以下の場合」に補助上限額を大幅に上乘せするという方法や、補助対象を現行の婚姻に伴う「住宅取得費用または住宅賃借費用」と「引越費用」に加えて、「家具家電等の購入費用」と「結婚式や披露宴等の費用」を加えるなどの方法も考えられる。20代は経済的基盤が整わずに結婚へ踏み切れない可能性が高いため、それを支援するというのも検討に値するのではないだろうか。

そして、結婚支援を行っていくにあたり、必要不可欠なのは地域住民の一体感である。少子化や人口減少への対策を行うことの必要性や、子育て支援だけでなく結婚支援を重点的に行わなければ状況を是正することは困難であるということへの理解を、多くの地域住民に共有していくことができなければ、スムーズな結婚支援を実施することは難しいように思われる。少子化と人口減少が著しく進むことになれば、学校・病院・スーパー・銀行・農協などの撤退から地域の消滅へ向かうことは将来的に不可避であるため、少子化対策は結婚・出産する世代の人だけでなく、すべての世代の人たちにかかわる問題であるということを説明し、“個々人の幸福（福祉）”に関わる問題でもあることを理解してもらうことが必要ではないだろうか。

多様な婚活イベントの実施による出会いの支援、既存の発想にとらわれない大胆な経済的支援、結婚支援を中心として少子化対策を行うことへの地域の一体感、この三つをバランス良く展開していくことが重要ではないかと考える。

## 2. まとめ

本事業は、既存のデータ分析結果から人口学的、および社会経済学的にみた能代市の特徴を明確にしたうえで、フィールドワーク等による定性分析により、能代市特有の少子化要因を明らかにするものである。

### (1) 『秋田県 少子化要因調査・分析事業』の結果概要

2019年度に行われた『秋田県 少子化要因調査・分析事業』では、秋田県内の各市町村において、“第三子以上の出生率の高さ”が出生率を引き上げる主要な要因となっている一方、“未婚者割合の高さ”“第1子出生率の低さ”が合計特殊出生率を逆に押し下げる要因となっていることが示唆されている。

出生率の比較的高い市町村では、“バランスのとれた「地域力」”が認められる傾向にあり、“家族や地域コミュニティによる自助・共助のあり方”“伝統産業・地場産業の今日的意義”が重要なキーワードとなっている。すなわち、かつて繁栄した伝統産業・地場産業が産業転換を経て今日どのような形で地域住民の生活に影響を及ぼしてきたのか、また、家族や地域コミュニティのあり方が地域社会の変化に如何に適応してきたのか、が出生動向に観測される地域性に結びついている可能性がある。

本事業においては、先行研究が示唆する秋田県全体の傾向を参照しつつ、能代市特有の少子化要因を探索することを主眼として分析を行っている。

### (2) 定量分析による能代市の特徴

能代市の出生率は秋田県内でも比較的高い水準で推移してきた。とりわけ合併前の旧二ツ井町では高い出生率が観測されている。しかしながら、近年では能代市全体の出生率は低下傾向にあり、秋田県内での優位性もかつてほど認められなくなっている。能代市の出生率を規定する人口学的な要因として、未婚者割合の高さ、第2子以上の出生率の相対的な低さが挙げられる。その一方で、第1子の出生率が比較的に高いことによって更なる出生率低下がこれまでのところ抑えられている。

未婚者割合の高さ、第2子以上の出生率の低さを起因とする低出生率は、東京都などの低出生地域で見られる傾向と類似している。

国勢調査の結果からも下記のような特徴がみてとれる。

- ・三世代世帯割合が低い
- ・第三次産業就業者割合が高い
- ・女性の管理的専門的技術的職業従事者（注1）割合が高い

いずれも、大都市圏において典型的な現象である。なかでも三世代同居と出生率の関係は、今日の実態調査（注2）の結果でも依然有意な関係が認められる。また、女性管理的専門的技術的職業従事者の出生率が相対的に低いことを示す調査結果もある（注3）。マクロデータによる分析からは因果関係をみてとることは難しいものの、相関関係においては能代市の出生率が大都市圏と類似した要因に基づいて規定されている可能性を示唆する結果となっている。

（注1）専門的技術的職業従事者とは、技術者、教員、法務、経営・金融・保健専門職業従事者をはじめ、保健医療、社会福祉専門職業従事者等を含む（総務省統計局『国勢調査』職業分類項目表による）。

（注2）国立社会保障・人口問題研究所『出生動向基本調査』

（注3）厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室『人口動態職業・産業別統計』

### （3）能代市アンケート調査とヒアリング調査の結果から

ここでは、能代市アンケート調査とフィールドワークの結果をもとに、能代市における少子化要因を補足していきたい。

『10～70代の地域住民へのアンケート調査』の結果からは、「人口減少を実感している」約80%、「人口減少への対策は重要」約80%という回答が得られている。また、ヒアリング調査でも、“子ども数がどんどん少なくなっている”“地元に残っている人のなかには結婚していない人も多い（特に、長男）”“地域の人口が減り、商店街にも後継者のいない店が多い”といった声が聞かれ、人口減少と少子高齢化が生活圏における身近な課題として認識されていることがわかる。基本的なことではあるが、住民がどの程度の問題意識を持っているかによって政策のあり方も変わるため、住民の認識は極めて重要であると考えられる。

『就職・進学希望等に関する高校生アンケート調査』からは、能代市における高校生の地元に対する意識が鮮明に表れており、大変興味深い。

地元進学を希望するもの35人に対し、地元以外へ進学を希望するものが334人。そのうち、「地元に戻りたい」60%、「帰るつもりはない」37%となっており、一旦市外に出ることを希望しつつも将来的には能代市にUターンするライフコースをイメージしている学生が多いこ

とがうかがえる。地元で暮らす理由として「生まれ育ったふるさとで暮らしたい」24%、「家族と一緒に暮らしたい」18%、「地域のために自分も何か力になりたい」24%となっており、いわゆる“ふるさと”意識は高校生の時点では強いことがみてとれる。一方、「地元で希望する就職先がない」とするものが39%、特に男子学生で「ない」と回答した割合が多くなっており、就業における需給のミスマッチを示唆する結果とも受け取れる。では、どんな就職先が求められているのだろうか。男女で異なるものの総じて、医療関係、公務員、製造業、IT等、ファッション・デザインを希望する学生が多い。

ヒアリング調査からも、上記のアンケート結果を支持、補足する意見が多数あった。同級生の集まりなどで都会から戻ってきたい、地元へ帰ってきたいという人が一定数存在する、その一方で、年代別には最近の若い人ほど地元意識が弱まる傾向もみられた。若年者のライフコース選択には親の意向も影響する。能代市では親の意識として、“子どもに1回は外へ出てほしい、外の世界を経験してほしい、そしてしばらく働いたら戻ってきてほしい”と考えている人も少なく無い。その背景には、親世代のなかにもかつて首都圏やその他の大都市圏で就学、就業等を経験したものが一定数存在していることが影響しているとも考えられ、親世代におけるそれらの経験が子ども世代のライフコース選択に少なからず影響を及ぼしていることは否定できない。他方で、能代市における豊富な地元資源、高い技術力、優良な事業所の存在を、親世代が十分に認識していないのではないか、と思われる場面もあった。

先述の通り、能代市では未婚者割合が高く、第2子以上の出生率が低い傾向にある。能代市全体としてみた場合、マクロの視点では三世代世帯割合と出生率との関連性に一定の正当性が認められる。しなしながら、個々の世帯における同別居の状態と子ども数の関係を必ずしも説明するものではない。ヒアリング調査では、子どもが3人以上いる夫婦では、同居の如何に関わらず祖父母の支援を得ながら仕事や子育てを行っているケースが周辺には多いという感想が少なからず聞かれた。また、旧能代市と旧二ツ井町では、現在でも居住形態に違いがあるように見受けられた。賃貸住宅や集合住宅が相対的に多いこと、離婚率が比較的高いことなどは、能代市における世帯の家族構成が多様であることを推察するに難くない。子どもと一緒に集える場所、とりわけ屋内施設に対する要望が多く寄せられていることなどを鑑みると、能代市における子育てを取り巻く環境が変わりつつあることを示唆しているように思われる。

結婚については、『18～49歳の未婚者へのアンケート調査』にみられるように、未婚者のうち結婚に向けて“とくに何も活動していない”約65%、“参加してみたいイベントや講座はない”約44%となっている。“跡取りだから結婚しなければいけないというような意識があった”かつての地域性も希薄化し、現在は結婚に対する周囲からのプレッシャーは明確に減退している。その一方で“結婚したいという意欲・願望はあっても、自分から積極的に行動を起こしていない(若い)人が多い”という感想を持つ住民も多い。また“自立“した女性が多い地域性が、未婚化を促している可能性もある。“県北地域では、あきた結婚支援センターの登録者数が他

地域よりも少ない”のは知人の目を気にしていることが背景にあるのではないか、という意見も聞かれた。このような地域性を踏まえ、能代市では NPO 法人をはじめ民間団体（および個人）による主体的でユニークな取り組みが目立つ。能代市隣接地域でのイベントや、あえて“婚活”をうたわないワークショップの開催など、工夫された取り組みにより男女ともに多くの若者の参加が得られている。

#### （４）今後の課題 ～提言にかえて～

##### ① 伝統産業、地場産業の繁栄と転換

今日みられる家族関係や地域コミュニティは、当然のことながら、近年にわかにつくられたものではなく、各地域において歴史的に培われたものであることは言を俟たない。かつて地域経済を支えてきた伝統産業、地場産業の多くは、強い家族関係や域内コミュニティのなかで繁栄を遂げた。また、地域経済の繁栄は多くの交流人口をもたらし、域外文化の流入による価値観の多様化やおもてなし意識も醸成された可能性がある。しかしながら、経済環境の変化のなかで家族関係や地域コミュニティの成立基盤であった伝統産業、地場産業が転換期を迎えることにより、それまで結婚、若者の働き方、子育て等を支えてきた地域環境も大きく変わることになる。今日まで残る“伝統的”な家族関係や地域コミュニティは、徐々に限定的な地域でしかみられなくなっている。

##### ② 家族と地域コミュニティ

三世同居、近居（日常的な行き来が可能な距離）といった住まい方のなかで、祖父母のサポートが若年夫婦の子育て、共働きを支えている側面がみられる。祖父母から日常的な支援を得やすい環境にある夫婦は、相対的に共働き割合が高く、子ども数が多いという、全国調査の結果に沿ったものにもなっている。また、地域コミュニティが緊密とみられる地域では、厄払い・年祝いの行事や地域のお祭り等、それらを機に若者が一堂に会するイベントが今も地域住民の支持を得て続いており、若者の出会いやUターンに一役買っている可能性が十分にある。

##### ③ 新たなシステムの構築への模索

能代市は木材業や鉱業等で繁栄してきた地域である。そのような歴史的背景のもと、人的交流も盛んであり、今日でも大都市圏とのつながりを持つ住民が極めて多い。世帯の小規模化が急速に進み、相対的に多様な家族・居住形態が市内に普及していったのも、これまでの能代市の形成過程と深く結びついている。

市の財政力指数や住民の課税対象所得の相対的な高さが示すように、自治体としての自立度、個々の住民の自立度も高いように見受けられる。そのような地域では逆に“余計なお世話”になることを住民の皆さんが互いに遠慮し合い、家族以外の人間関係が一見疎遠に感じられることがある。NPO 法人をはじめ民間団体（および個人）による主体的でユニークな取り組みのなかに“さりげないおせっかい（ナッジ）（注4）”が自然と取り入れられているケースが見受けられる。能代市内では合併前の旧能代市と旧二ツ井町がそれぞれの個性を今も保ちながら共存している。住民どうし、地域相互の関係性をつくる“さりげないおせっかい（ナッジ）”が地域システムとして根付く時、人口減少と少子高齢化といった今日的課題に対する突破口がみえてくるのかもしれない。

（注4）Nudge:肘でそっと相手を突く“選択肢を制限せず、人の行動を促す”

2017年ノーベル行動経済学賞シカゴ大学のリチャード・セイラー教授

### 3. 参考資料

#### ●市町村別合計特殊出生率の要因分解計算結果

	合計特殊出生率	県の合計特殊出生率(1.33)との差 B=A-1.33=C+D	要因分解計算結果				
			結婚要因 (有配偶率要因) C	出生力要因(有配偶出生率要因) D=E+F+G			
				第1子要因 E	第2子要因 F	第3子以上要因 G	
A							
秋田市	1.31	-0.02	-0.07	0.05	0.07	0.01	-0.03
能代市	1.24	-0.09	-0.08	-0.01	0.04	-0.03	-0.02
横手市	1.37	0.04	0.06	-0.02	-0.03	0.01	0.01
大館市	1.37	0.05	0.11	-0.07	-0.06	-0.04	0.04
男鹿市	1.14	-0.19	-0.18	-0.01	-0.04	-0.02	0.05
湯沢市	1.30	-0.03	-0.02	-0.01	-0.03	0.02	0.00
鹿角市	1.46	0.13	0.13	-0.00	-0.08	-0.03	0.11
由利本荘市	1.36	0.03	0.10	-0.07	-0.05	-0.02	-0.00
潟上市	1.32	-0.01	0.01	-0.02	-0.04	-0.01	0.03
大仙市	1.42	0.09	0.10	-0.01	0.01	-0.00	-0.01
北秋田市	1.47	0.14	0.06	0.08	-0.01	0.05	0.05
にかほ市	1.42	0.10	0.13	-0.04	-0.06	0.01	0.01
仙北市	1.35	0.02	0.09	-0.07	-0.11	0.03	0.00
小坂町	1.45	0.12	0.06	0.06	-0.04	0.02	0.07
上小阿仁村	1.57	0.24	0.20	0.05	-0.08	0.03	0.10
藤里町	1.45	0.12	-0.07	0.20	0.05	0.02	0.12
三種町	1.20	-0.13	-0.09	-0.05	-0.10	-0.01	0.07
八峰町	1.21	-0.12	0.04	-0.17	-0.24	0.04	0.04
五城目町	1.26	-0.07	-0.07	0.01	-0.06	0.05	0.02
八郎潟町	1.19	-0.14	-0.18	0.05	-0.03	0.05	0.02
井川町	1.08	-0.25	-0.20	-0.06	-0.08	0.00	0.02
大潟村	1.56	0.23	0.07	0.17	-0.03	0.23	-0.03
美郷町	1.28	-0.05	0.07	-0.12	-0.11	-0.02	0.01
羽後町	1.42	0.09	-0.01	0.11	0.02	0.05	0.03
東成瀬村	1.54	0.21	0.11	0.11	0.03	-0.01	0.10

資料：秋田県推定値(平成25-29年、ベイズ推定前)

●合計特殊出生率に影響を与えると考えられる社会経済的指標（データセット）

	1	2	3	4	5	6	7	8
	人口規模	人口密度	人口性比 (25-39歳)	高齢化率	人口変化 率	15-29歳人 口変化率： 男	15-29歳人 口変化率： 女	人口1人当 たり課税対 象所得
秋田市	315,814	348.5	95	28.1	-2.4	-11.3	-13.0	290.3
能代市	54,730	128.2	103	37.0	-7.4	-15.6	-19.8	252.3
横手市	92,197	133.1	107	35.1	-6.3	-18.2	-18.0	250.2
大館市	74,175	81.2	107	35.8	-6.0	-12.0	-14.6	248.6
男鹿市	28,375	117.7	112	41.1	-12.1	-32.7	-36.3	237.4
湯沢市	46,613	58.9	111	35.7	-8.3	-13.7	-16.0	237.0
鹿角市	32,038	45.3	114	36.8	-7.1	-11.6	-20.2	230.6
由利本荘市	79,927	66.1	112	33.1	-6.2	-15.4	-17.0	254.3
潟上市	33,083	338.5	101	31.3	-3.9	-12.8	-12.9	241.6
大仙市	82,783	95.5	106	34.6	-6.2	-15.6	-16.6	249.7
北秋田市	33,224	28.8	115	40.5	-8.7	-13.6	-14.7	235.3
にかほ市	25,324	105	114	34.4	-8.1	-24.5	-23.3	272.8
仙北市	27,523	25.2	107	38.4	-6.9	-16.4	-20.2	234.0
小坂町	5,339	26.5	122	41.7	-11.8	-19.4	-24.7	242.1
上小阿仁村	2,381	9.3	137	48.7	-12.7	-20.0	-3.1	212.4
藤里町	3,359	11.9	125	43.6	-12.7	-24.6	-31.0	206.9
三種町	17,078	68.9	107	39.6	-9.5	-22.8	-21.6	231.7
八峰町	7,309	31.2	121	41.7	-11.1	-11.8	-26.6	230.1
五城目町	9,463	44	106	41.8	-10.0	-20.8	-19.5	235.5
八郎潟町	6,080	357.6	117	37.3	-8.2	-26.7	-25.5	241.3
井川町	4,986	104	109	37.6	-9.2	-10.8	-17.4	250.0
大潟村	3,110	18.3	107	30.9	-3.4	-2.2	-7.2	366.4
美郷町	20,279	120.5	107	35.3	-6.4	-17.2	-21.3	233.8
羽後町	15,319	66.4	109	35.1	-8.8	-20.8	-22.9	235.4
東成瀬村	2,610	12.8	119	36.5	-9.1	-22.1	-10.4	208.3
単位	人	人/km <sup>2</sup>		%	%	%	%	万円
秋田県	1,023,119	87.9	104	33.6	-5.8	-14.8	-16.5	261.2
年次	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2017
資料	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省
	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「市町村税 課税状況 等の調」
分子			25-39歳男	65歳以上 人口	2015人口	15-29歳人 口(2015)	15-29歳人 口(2015)	課税対象 所得
分母			25-39歳女	総人口	2010人口	15-29歳人 口(2010)	15-29歳人 口(2010)	納税義務 者数
備考			算定式× 100	算定式× 100	(算定式- 1)×100	(算定式- 1)×100	(算定式- 1)×100	

●合計特殊出生率に影響を与えられとされる社会経済的指標（データセット）

	9	10	11	12	13	14	15	16
	正規雇用割合	完全失業率	財政力指数	第一次産業就業者割合	女性労働力率(15-64歳)	0-4歳人口千人当たりの小児科医師数(二次医療圏)	25-39歳女性人口千人当たりの産婦人科と産科の医師数(二次医療圏)	保健師数(人口1万人当たり)
秋田市	67.2	4.4	0.66	2.1	66.7	7.68	1.75	1.7
能代市	68.8	5.4	0.44	8.7	72.3	4.86	1.45	2.4
横手市	69.2	3.8	0.33	16.2	74.4	6.43	1.28	3.7
大館市	69.2	4.6	0.42	7.0	72.2	5.26	1.13	2.8
男鹿市	66.7	5.7	0.36	13.8	67.5	7.68	1.75	4.2
湯沢市	70.6	4.3	0.30	12.5	72.1	4.65	1.02	3.6
鹿角市	70.6	4.6	0.32	13.1	76.6	5.26	1.13	3.4
由利本荘市	70.4	3.9	0.33	11.2	73.4	6.57	1.41	3.6
潟上市	66.3	5.3	0.34	6.2	69.6	7.68	1.75	3.9
大仙市	70.6	3.8	0.34	13.9	74.3	5.49	1.02	3.9
北秋田市	70.2	4.3	0.26	11.6	72.9	7.20	1.09	3.6
にかほ市	71.0	4.1	0.38	10.2	73.3	6.57	1.41	5.5
仙北市	68.3	4.6	0.25	14.1	75.6	5.49	1.02	5.8
小坂町	65.7	4.9	0.30	8.4	74.3	5.26	1.13	5.6
上小阿仁村	62.6	4.1	0.12	15.8	73.1	7.20	1.09	12.6
藤里町	63.0	3.3	0.13	12.9	71.0	4.86	1.45	8.9
三種町	68.8	4.5	0.25	20.1	74.5	4.86	1.45	5.3
八峰町	64.4	3.7	0.16	21.1	77.0	4.86	1.45	4.1
五城目町	68.7	5.4	0.25	12.4	71.4	7.68	1.75	5.3
八郎潟町	68.0	4.8	0.26	11.3	71.9	7.68	1.75	4.9
井川町	66.5	3.9	0.23	13.6	72.3	7.68	1.75	8.0
大潟村	85.7	0.8	0.35	77.1	76.9	7.68	1.75	6.4
美郷町	68.9	3.2	0.25	17.0	75.7	5.49	1.02	3.9
羽後町	70.3	4.6	0.24	17.6	75.0	4.65	1.02	3.3
東成瀬村	70.8	3.7	0.10	14.9	74.7	4.65	1.02	7.7
単位	%	%		%	%	人	人	人
秋田県	68.7	4.3	0.30	9.8	71.1	6.55	1.44	3.2
年次	2015	2015	2016	2015	2015	2015	2015	2018
資料	総務省統計局 「国勢調査」	総務省統計局 「国勢調査」	総務省 「市町村別決算状況調」	総務省統計局 「国勢調査」	総務省統計局 「国勢調査」	まち・ひと・しごと創生本部 「地域少子化・働き方指標(第3版)」	まち・ひと・しごと創生本部 「地域少子化・働き方指標(第3版)」	厚生労働省 「保健師活動領域調査」
分子	正規の職員・従業員	完全失業者数		第一次産業就業人口	労働力人口(15-64歳)			保健師数
分母	雇用者	労働力人口		就業者人口	15-64歳人口(労働力状態不詳を除く)			人口
備考				算定式×100		「主として従事する」「複数従事する」の内「複数」	「主として従事する」「複数従事する」の内「複数」	人口は国勢調査(2015)

●合計特殊出生率に影響を与えられとされる社会経済的指標（データセット）

	17	18	19	20	21	22	23	24
	保育所等 利用率(0- 5歳人口)	放課後児 童クラブ登 録割合(小 学校児童 比)	0-17歳人 口当たり児 童福祉費	持ち家比 率	住宅延べ 面積 (100m <sup>2</sup> 以 上の割合)	三世代世 帯割合	消防団員 数(人口千 人当たり)	刑法犯発 生件数(人 口千人当 たり)
秋田市	47.8	11.0	376.0	66.0	49.5	6.1	6.0	3.23
能代市	66.0	23.8	433.1	80.0	63.9	10.1	12.9	3.09
横手市	80.3	31.5	459.9	83.7	74.7	20.3	26.6	2.12
大館市	56.5	32.7	378.1	79.2	64.2	13.5	14.6	2.45
男鹿市	67.2	33.2	405.2	89.2	69.3	10.4	25.3	2.61
湯沢市	66.3	44.9	372.3	86.4	77.7	19.4	34.3	2.06
鹿角市	85.9	35.0	430.6	82.8	67.3	17.7	26.8	1.40
由利本荘市	81.2	28.0	399.6	81.1	67.9	17.4	20.7	1.80
潟上市	51.8	30.1	347.1	84.8	67.8	12.6	13.7	1.99
大仙市	74.5	27.8	424.7	83.8	73.5	21.1	15.2	1.58
北秋田市	88.7	51.5	531.6	85.7	70.8	15.4	20.6	1.87
にかほ市	81.1	31.0	394.7	89.0	75.8	18.3	22.2	1.54
仙北市	76.4	37.6	408.5	86.3	70.5	20.5	21.0	2.11
小坂町	81.6	44.4	397.1	77.6	58.9	11.2	27.2	1.12
上小阿仁村	87.2	73.1	477.6	89.0	75.7	12.9	35.3	1.26
藤里町	37.5	35.5	278.0	90.7	75.6	17.8	33.6	0.89
三種町	86.8	67.5	424.4	91.8	77.0	18.7	26.2	1.29
八峰町	85.6	59.5	434.0	95.0	75.5	16.7	33.5	0.82
五城目町	64.3	35.8	299.3	89.2	69.0	15.4	16.5	1.59
八郎潟町	53.6	50.9	304.6	87.1	75.3	14.9	12.8	1.81
井川町	64.1	30.8	290.5	92.0	85.5	23.0	25.7	5.62
大潟村	23.9	31.3	236.3	87.2	78.3	34.1	15.1	2.89
美郷町	66.1	35.0	317.4	93.9	83.2	29.4	17.1	0.94
羽後町	90.2	30.3	374.4	95.3	79.6	27.1	29.4	0.85
東成瀬村	84.0	80.4	456.0	95.9	85.0	28.2	61.7	0.38
単位	%	%	千円	%	%	%	人	件
秋田県	64.3	26.1	110.3	78.0	63.7	13.4	16.5	2.37
年次	2015	2018	2016	2015	2010	2015	2017	2017
資料	厚生労働省	秋田県	総務省	総務省 統計局	総務省 統計局	総務省 統計局	秋田県	秋田県警 察
	社会福祉 施設等調 査	「放課後児 童クラブ一 覧」	「市町村別 決算状況 調」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「国勢 調査」	「消防防災 年報29年 版」	「市町村別 刑法犯発 生状況」
分子	保育所等 在所児数	放課後児 童クラブ登 録児童数	児童福祉 費	持ち家に住 む一般世 帯数	延べ面積 100m <sup>2</sup> 以 上		消防団員 数	刑法犯 発生数
分母	0-5歳 人口	小学校児 童数(井川 町は義務 教育学校 のうち1-6 年生)	0-17歳 人口	住宅に住 む一般世 帯数	住宅に住 む一般世 帯数		人口	人口
備考	人口は国 勢調査 (2015)	児童数は 学校基本 調査 (2018)	人口は国 勢調査 (2015)		2015年国 勢調査で は「延べ面 積」が項目 から削除		人口は国 勢調査 (2015)	人口は国 勢調査 (2015)

●主な人口指標

	未婚率(25-39歳) (H27)		年齢階級別出生率 (H20-24)		出生順位別割合 (H25-29)		
	男性	女性	25-29歳	30-34歳	第1子	第2子	第3子 以上
秋田市	48.0	38.8	0.42	0.42	48.6	37.6	13.8
能代市	51.6	36.5	0.47	0.42	47.3	37.1	15.6
横手市	49.1	33.1	0.52	0.46	43.5	39.0	17.5
大館市	49.7	34.9	0.51	0.45	44.2	36.2	19.6
男鹿市	58.7	43.0	0.38	0.36	42.4	36.3	21.3
湯沢市	53.9	36.1	0.52	0.44	42.9	40.1	17.0
鹿角市	49.9	30.1	0.51	0.46	39.0	35.6	25.4
由利本荘市	50.5	33.0	0.54	0.47	44.7	38.4	16.9
潟上市	48.7	36.6	0.44	0.38	44.5	37.5	18.1
大仙市	48.9	34.1	0.48	0.41	46.5	38.0	15.5
北秋田市	54.0	36.0	0.50	0.44	42.1	38.5	19.3
にかほ市	51.9	31.2	0.54	0.42	42.3	39.8	17.9
仙北市	48.9	34.7	0.51	0.43	41.5	41.4	17.1
小坂町	58.3	32.8	0.46	0.41	42.2	37.6	20.2
上小阿仁村	59.8	37.8	0.48	0.41	43.3	36.7	20.0
藤里町	60.2	42.2	0.47	0.43	40.9	33.3	25.8
三種町	56.5	41.8	0.43	0.38	40.4	37.6	22.0
八峰町	59.5	35.3	0.53	0.43	33.6	43.6	22.7
五城目町	57.9	41.5	0.50	0.38	40.6	41.5	17.9
八郎潟町	60.7	44.3	0.44	0.40	38.5	42.3	19.2
井川町	56.2	41.2	0.41	0.40	43.2	37.5	19.3
大潟村	46.1	23.4	0.52	0.53	36.2	51.1	12.8
美郷町	51.3	36.2	0.44	0.38	42.1	40.0	18.0
羽後町	54.9	37.9	0.50	0.40	43.9	38.3	17.8
東成瀬村	53.7	33.3	0.47	0.45	42.9	35.7	21.4
単位	%	%			%	%	%
秋田県	50.2	36.3	-	-	45.5	38.0	16.5
資料	まち・ひと・しごと 創生本部		まち・ひと・しごと 創生本部		秋田県		
	「地域少子化・働き 方指標(第3版)」		「地域少子化・働き 方指標(第3版)」				

# ➤ 能代市の分析カルテ

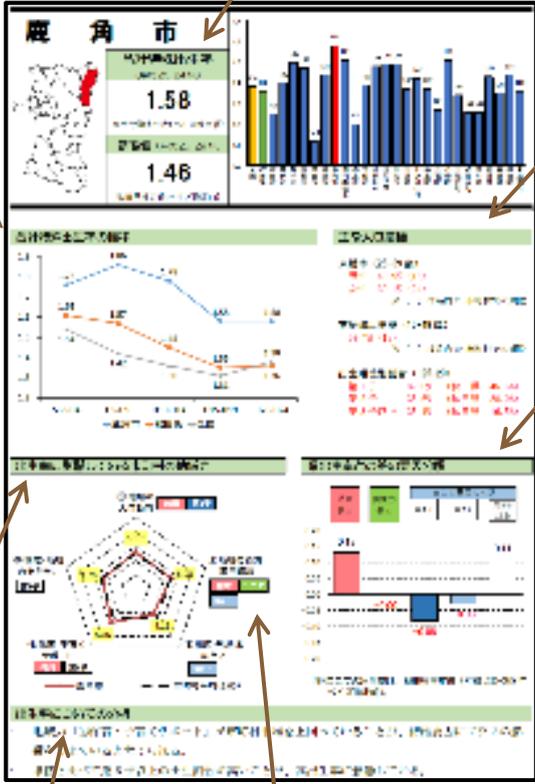
## ◆ 市町村分析カルテの見方（左ページ）

県内市町村を対象とした合計特殊出生率の地域差の要因分析結果（第1章）に基づき、合計特殊出生率に影響する出生構造や社会経済特性等について市町村別の「カルテ」を作成した。

◎合計特殊出生率を記載  
厚生労働省公表の最新値（平成20～24年）と、秋田県の推計値（平成25～29年）を併記。

◎合計特殊出生率と関連する人口データがわかる  
まち・ひと・しごと創生本部「市町村別少子化関連指標」及び秋田県出生データから、合計特殊出生率と関係の深い主要人口データを掲載。

◎合計特殊出生率の変化がわかる  
厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」から、昭和63年～平成4年以降の合計特殊出生率をグラフ化。ただし、市町村合併を行った自治体は、合併前後の自治体データを記載。なお、比較対象として秋田県と全国のデータを併記。



◎合計特殊出生率が高い（低い）要因がわかる  
棒グラフが上方に伸びている場合は、市町村の出生率をその数値の分だけ押し上げている。下方に伸びている場合はその逆となる。なお、「結婚要因」と「出生力要因」の数値を合計すると、県出生率との差に一致する。

◎地域特性がわかる  
合計特殊出生率に影響を与えると考えられる24の指標を5つの地域力に分けて、得点をレーダーチャート化。5点を市町村平均としているため、5点より大きければ強み、小さければ課題を意味する。

◎【全市町村共通】地域力と要因との関連を記載  
地域力①～⑤と、合計特殊出生率の分解要因との関連を示している。例えば「①地域の人口動向」は、結婚要因、第1子要因にプラスの効果をもたらしていると考えられる。

※出生率は秋田県の平成25-29推定値（ベイズ推定前）を使用

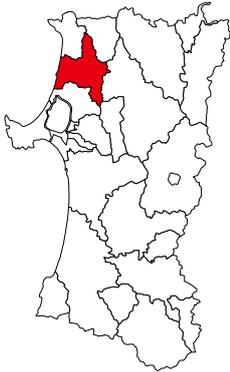
- 結婚要因  
有配偶者の割合が出生率に与える影響の大きさ
- 出生力要因  
有配偶者のうち子どもを生んだ人の割合が出生率に与える影響の大きさ
- 第1子要因  
有配偶者のうち第1子を生んだ人の割合が出生率に与える影響の大きさ
- 第2子要因  
有配偶者のうち第2子を生んだ人の割合が出生率に与える影響の大きさ
- 第3子以上要因  
有配偶者のうち第3子以上を生んだ人の割合が出生率に与える影響の大きさ

◎合計特殊出生率の傾向を解説  
上記のグラフ等から市町村の合計特殊出生率の傾向について簡潔に分析。

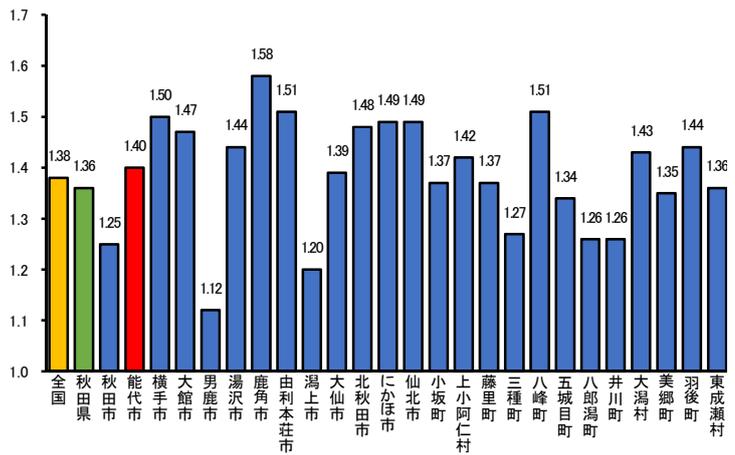
※それぞれの関連は全市町村共通のものとして算出しているため、個々の市町村では傾向が当てはまらない場合がある



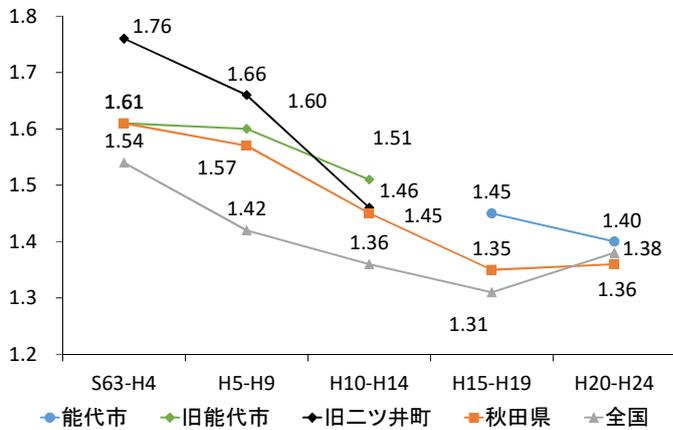
# 能代市



合計特殊出生率 (平成 20-24 年)
<b>1.40</b>
厚生労働省公表(ベース推定値)
参考値 (平成 25-29 年)
<b>1.24</b>
秋田県推定値(ベース推定前)



## 合計特殊出生率の推移



## 主な人口指標

未婚率 (25-39 歳)

男性	51.6% (15)
女性	36.5% (11)

※ ( ) は県内25市町村での順位

年齢階級別出生率 (H20-24)

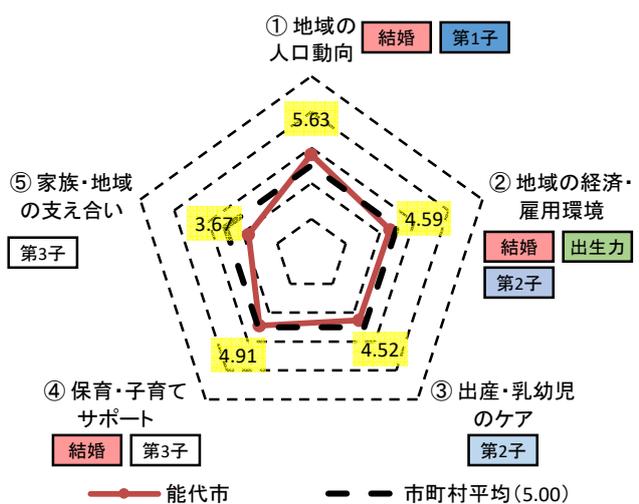
25-29歳	0.47 (16)
30-34歳	0.42 (14)

※ ( ) は県内25市町村での順位

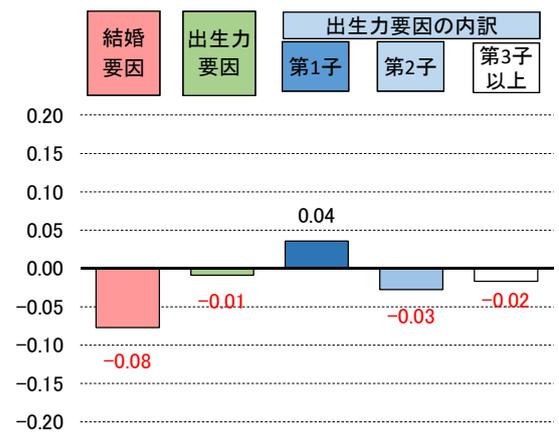
出生順位別割合 (H25-29)

第1子	47.3%	(秋田県 45.5%)
第2子	37.1%	(秋田県 38.0%)
第3子以上	15.6%	(秋田県 16.5%)

## 出生率に影響している市町村の地域力



## 県出生率との差の要因分解

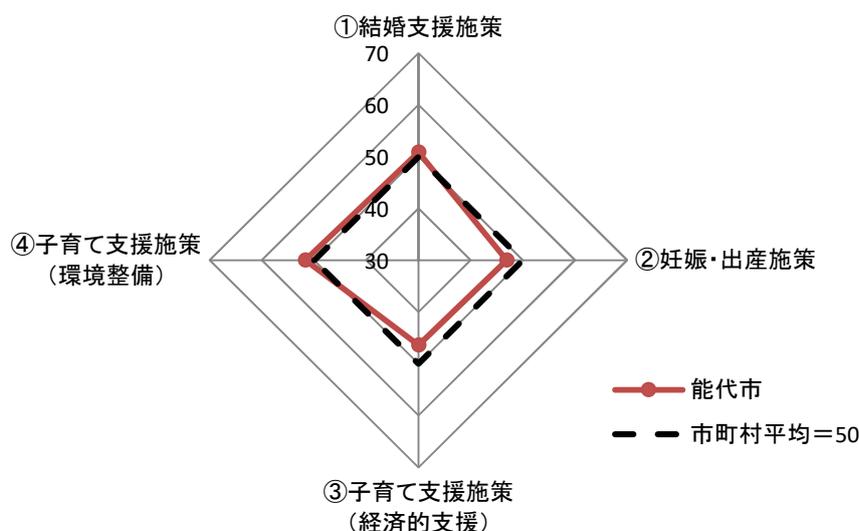


(注) ここでの出生率は、秋田県推定値 (平成 25-29 年ベース推定前)。

## 出生率についての分析

- 結婚要因に影響する地域力「②地域の経済・雇用環境」「④保育・子育てサポート」が市町村平均を下回っていることが、結婚要因にマイナスの影響を与えていると考えられる。
- 第2子以降の要因がマイナスの影響で、出生力要因もマイナスとなっている。

## 施策偏差値



## 能代市の主な取り組み等

### ◆結婚支援

- 結婚支援センター入会登録料補助  
平成 27 年度より全額(10,000 円)の助成を開始した。
- 婚活支援イベントへの助成  
事業開始の平成 27 年度から 3 年間で 39 組のカップルが成立、把握する限りで 4 組の成婚実績があった。

### ◆妊娠・出産

- 不妊治療費助成(平成 28 年度から拡充)  
一般…期間制限の撤廃、助成額上限を 5 万円増の 15 万円に増額。  
特定…県事業の上乗せ助成、年度内の回数制限撤廃、1 回の治療につき上限 15 万円
- 子育て世代包括支援センター  
平成 30 年 10 月 1 日から、子育て支援課内に子育て世代包括支援センター「めん choco てらす」を開設し、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を実施している。

### ◆子育て支援（経済的支援）

- 給食費補助金（平成 27 年度～）  
実費徴収となっている 1 号認定の給食費（副食材料費）を補助する。  
平成 27 年度：生活保護世帯及び市民税非課税世帯：全額助成  
平成 28 年度：下記の内容を拡充  
市民税均等割のみ課税～所得割 77,101 円未満世帯：2 分の 1 助成  
市民税所得割 77,101 円以上～211,201 円未満世帯：8 分の 1 助成  
決算額：平成 29 年度：1,820 千円、平成 28 年度：2,414 千円、平成 27 年度：820 千円  
実績件数：平成 29 年度：1,446 人月、平成 28 年度：1,751 人月、平成 27 年度：205 人月
- 小・中学校就学援助（入学前新入学用品費）  
小・中学校の新入学用品費として、入学前の 2 月に就学援助を支給する（支給時期の前倒し）。
- 医療費助成  
平成 28 年度から助成対象を中学生まで拡大。
- 住宅リフォーム補助  
平成 28 年度から、多子世帯（18 歳未満の子を 3 人以上扶養し同居している世帯）の場合、一般制度（工事費の 10%・最大 20 万円）に加えて、工事費の 10%・最大 20 万円が補助される。

### ◆子育て支援（環境整備）

- 能代すくすくパス事業（平成 20 年度～）  
妊娠中及び 18 歳未満の子どもがいる世帯に協賛店でサービスをうけることのできるカードを発行している。
- めん choco 誕生事業（平成 22 年度～）  
事業内容の変遷：能代市で出生した子どもに対して、赤ちゃんの名前や身長・体重、地名などが登場するオリジナル絵本、又は、赤ちゃんへのメッセージを添えた木製品をプレゼントする。
- 移動赤ちゃんの駅貸出事業  
市内で開催されるイベントに、乳幼児のおむつ交換や授乳を行うためのスペースとして移動赤ちゃんの駅を貸し出すことにより、乳幼児を連れた保護者が安心してイベントに参加できる環境づくりを推進し、子育て支援に資することを目的とした事業。

■定量分析資料（参考：県内市町村順位表示）①

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16	
	順位	%	順位	人	順位	%	順位	万円	順位	万円	順位	%	順位	%																		
秋田県		-29.8		-31.8		0.0		-1.7		50.2		36.3		69.1		104		79.5		13.4		2.85		1.36		261.2		273.6		68.7		4.3
1 秋田市	2	-14.6	2	-14.2	22	-13.6	21	-10.2	2	48.0	19	38.8	8	70.6	25	95	1	66.4	25	6.1	4	3.63	23	1.51	2	290.3	3	297.7	18	67.2	14	4.4
2 能代市	21	-45.4	17	-46.0	10	18.0	9	8.1	11	51.6	15	36.5	18	62.4	23	103	15	89.8	24	10.1	9	2.83	20	1.39	5	252.3	17	237.7	14	68.8	23	5.4
3 横手市	19	-42.9	13	-43.7	4	25.8	4	15.7	6	49.1	6	33.1	6	71.0	19	107	10	84.6	8	20.3	7	3.06	14	1.26	6	250.2	7	275.3	10	69.2	7	3.8
4 大館市	7	-35.7	4	-33.8	7	19.9	10	4.9	7	49.7	10	34.9	5	73.4	16	107	11	86.0	19	13.5	16	2.20	24	1.56	9	248.6	9	266.9	11	69.2	17	4.6
5 男鹿市	14	-41.4	10	-43.1	24	-22.4	24	-30.8	21	58.7	24	43.0	17	63.4	10	112	19	95.7	23	10.4	20	1.76	25	1.59	13	237.4	23	215.9	19	66.7	25	5.7
6 湯沢市	18	-42.5	19	-48.6	2	32.6	5	15.4	14	53.9	13	36.1	21	55.9	12	111	7	83.3	9	19.4	11	2.64	10	1.16	14	237.0	13	248.8	5	70.6	12	4.3
7 鹿角市	12	-38.2	11	-43.3	6	21.8	8	10.8	8	49.9	2	30.1	13	67.7	9	114	16	90.9	13	17.7	12	2.59	22	1.44	21	230.6	14	243.7	4	70.6	16	4.6
8 由利本荘市	3	-19.4	5	-35.0	23	-16.3	13	0.2	9	50.5	5	33.0	10	68.2	11	112	3	78.5	14	17.4	13	2.51	15	1.30	4	254.3	5	278.4	7	70.4	9	3.9
9 潟上市	5	-32.9	3	-25.3	19	0.501	16	-3.3	3	48.7	16	36.6	19	62.1	24	101	2	74.0	21	12.6	25	0.85	18	1.33	11	241.6	10	260.6	21	66.3	22	5.3
10 大仙市	13	-40.3	6	-35.1	9	19.22	6	12.0	4	48.9	8	34.1	3	76.3	22	106	6	82.4	6	21.1	19	2.13	16	1.30	8	249.7	4	278.9	6	70.6	6	3.8
11 北秋田市	17	-42.4	20	-50.2	8	19.37	3	15.9	15	54.0	12	36.0	9	69.9	7	115	20	98.0	16	15.4	5	3.25	11	1.17	17	235.3	18	233.3	9	70.2	13	4.3
12 にかほ市	15	-41.5	22	-53.4	13	8.714	15	-2.7	12	51.9	3	31.2	14	65.8	8	114	8	83.5	11	18.3	18	2.13	19	1.38	3	272.8	2	318.4	2	71.0	11	4.1
13 仙北市	8	-36.6	12	-43.5	14	8.1	7	11.8	5	48.9	9	34.7	4	73.8	18	107	18	93.8	7	20.5	10	2.80	21	1.42	18	234.0	19	230.6	16	68.3	18	4.6
14 小坂町	25	-50.4	23	-53.8	1	58.5	2	17.9	20	58.3	4	32.8	24	39.8	3	122	23	102.7	22	11.2	21	1.50	3	0.56	10	242.1	21	223.9	22	65.7	21	4.9
15 上小阿仁村	9	-36.7	7	-38.7	3	29.2	1	30.0	23	59.8	17	37.8	25	29.2	1	137	25	120.3	20	12.9	1	8.40	2	0.42	23	212.4	25	189.8	25	62.6	10	4.1
16 藤里町	24	-47.8	24	-57.9	21	-5.8	23	-19.1	24	60.2	23	42.2	11	68.0	2	125	24	106.7	12	17.8	3	4.17	4	0.60	25	206.9	24	199.7	24	63.0	3	3.3
17 三種町	20	-45.2	16	-46.0	18	0.8	20	-7.5	18	56.5	22	41.8	12	67.9	17	107	17	92.8	10	18.7	17	2.17	6	0.94	20	231.7	16	238.5	13	68.8	15	4.5
18 八峰町	23	-46.8	25	-63.3	5	25.6	22	-11.2	22	59.5	11	35.3	22	52.4	4	121	21	99.0	15	16.7	8	3.01	13	1.23	22	230.1	22	220.8	23	64.4	5	3.7
19 五城目町	6	-33.2	8	-39.4	15	5.4	14	-1.4	19	57.9	21	41.5	7	70.7	21	106	22	99.1	17	15.4	23	1.27	7	0.95	15	235.5	20	225.9	15	68.7	24	5.4
20 八郎潟町	16	-41.6	18	-46.5	20	0.0	18	-5.7	25	60.7	25	44.3	15	65.6	6	117	13	87.9	18	14.9	6	3.13	17	1.32	12	241.3	12	249.4	17	68.0	20	4.8
21 井川町	10	-37.8	14	-45.2	16	4.7	19	-5.8	17	56.2	20	41.2	23	51.5	13	109	14	88.2	5	23.0	24	1.20	5	0.60	7	250.0	6	278.2	20	66.5	8	3.9
22 大湯村	1	9.3	1	-6.4	25	-57.4	25	-69.2	1	46.1	1	23.4	20	57.7	20	107	4	80.9	1	34.1	22	1.29	8	0.96	1	366.4	1	766.9	1	85.7	1	0.8
23 美郷町	11	-37.8	9	-40.1	17	4.3	12	3.9	10	51.3	14	36.2	2	79.3	15	107	9	84.0	2	29.4	14	2.47	12	1.18	19	233.8	8	274.2	12	68.9	2	3.2
24 羽後町	22	-45.7	21	-52.4	12	11.6	11	4.7	16	54.9	18	37.9	16	63.8	14	109	5	81.5	4	27.1	2	4.63	9	0.98	16	235.4	11	257.5	8	70.3	19	4.6
25 東成瀬村	4	-30.8	15	-45.5	11	17.5	17	-4.3	13	53.7	7	33.3	1	85.2	5	119	12	87.4	3	28.2	15	2.30	1	0.00	24	208.3	15	239.1	3	70.8	4	3.7
年次	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2015	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016
資料	総務省「国勢調査」	厚生労働省「人口動態調査」	総務省「国勢調査」																													
分子	2015年20-24歳	2015年20-24歳	2015年25-29歳	外国人	離婚件数	課税対象所得																										
分母	2010年15-19歳	2010年15-19歳	2010年20-24歳	人口	人口	納税義務者数	世帯数																									
備考	算定式×100	人口は国勢調査(2015)																														

■定量分析資料（参考：県内市町村順位表示）②

	17		18		19		20		21		22		23		24		25		26		27		28		29		30		31		32	
	順位	%	順位	%	順位	億円	順位	店	順位		順位	%	順位	%	順位	人	順位	件	順位	千円	順位	%	順位	%	順位	人	順位	人	順位	人	順位	%
秋田県		71.1		28.2		12.1		8.7		0.30		78.0		63.7		16.5		2.37		110.3		64.3		26.1		6.55		1.44		1,023,119		100.0
1 秋田市	25	66.7	1	33.8	13	8.9	21	6.9	1	0.66	25	66.0	25	49.5	25	6.0	24	3.23	16	376.0	23	47.8	25	11.0	1	7.68	1	1.75	1	315,814	1	30.9
2 能代市	16	72.3	2	30.3	8	13.8	7	10.0	2	0.44	22	80.0	23	63.9	23	12.9	23	3.09	6	433.1	17	66.0	24	23.8	19	4.86	8	1.45	6	54,730	6	5.3
3 横手市	9	74.4	8	26.8	7	14.2	5	10.5	9	0.33	19	83.7	13	74.7	9	26.6	19	2.12	3	459.9	11	80.3	16	31.5	12	6.43	14	1.28	2	92,197	2	9.0
4 大館市	18	72.2	6	27.3	5	18.2	18	8.3	3	0.42	23	79.2	22	64.2	21	14.6	20	2.45	15	378.1	20	56.5	15	32.7	16	5.26	15	1.13	5	74,175	5	7.2
5 男鹿市	24	67.5	17	24.6	20	4.8	15	8.7	5	0.36	8	89.2	17	69.3	12	25.3	21	2.61	11	405.2	14	67.2	14	33.2	2	7.68	2	1.75	11	28,375	11	2.8
6 湯沢市	19	72.1	19	23.8	10	12.8	1	10.7	13	0.30	14	86.4	6	77.7	3	34.3	17	2.06	18	372.3	15	66.3	7	44.9	23	4.65	20	1.02	7	46,613	7	4.6
7 鹿角市	3	76.6	9	26.7	17	6.9	10	9.5	11	0.32	20	82.8	21	67.3	8	26.8	9	1.40	7	430.6	5	85.9	12	35.0	17	5.26	16	1.13	10	32,038	10	3.1
8 由利本荘市	12	73.4	4	27.6	6	14.6	11	9.3	10	0.33	21	81.1	19	67.9	15	20.7	13	1.80	12	399.6	9	81.2	22	28.0	10	6.57	12	1.41	4	79,927	4	7.8
9 湯上市	23	69.6	16	24.8	9	13.5	23	6.6	8	0.34	17	84.8	20	67.8	22	13.7	16	1.99	19	347.1	22	51.8	21	30.1	3	7.68	3	1.75	9	33,083	9	3.2
10 大仙市	10	74.3	11	25.9	14	8.5	2	10.7	7	0.34	18	83.8	14	73.5	19	15.2	11	1.58	8	424.7	13	74.5	23	27.8	13	5.49	23	1.02	3	82,783	3	8.1
11 北秋田市	15	72.9	3	27.8	16	7.6	12	9.2	15	0.26	16	85.7	15	70.8	16	20.6	15	1.87	1	531.6	2	88.7	5	51.5	8	7.20	18	1.09	8	33,224	8	3.2
12 にかほ市	13	73.3	23	21.6	1	60.2	13	9.0	4	0.38	10	89.0	8	75.8	13	22.2	10	1.54	14	394.7	10	81.1	18	31.0	11	6.57	13	1.41	13	25,324	13	2.5
13 仙北市	5	75.6	14	25.3	18	5.7	6	10.2	16	0.25	15	86.3	16	70.5	14	21.0	18	2.11	10	408.5	12	76.4	9	37.6	14	5.49	24	1.02	12	27,523	12	2.7
14 小坂町	11	74.3	5	27.3	2	42.3	3	10.7	12	0.30	24	77.6	24	58.9	7	27.2	6	1.12	13	397.1	8	81.6	8	44.4	18	5.26	17	1.13	20	5,339	20	0.5
15 上小阿仁村	14	73.1	20	23.7	23	1.9	8	9.7	24	0.12	11	89.0	9	75.7	2	35.3	7	1.26	2	477.6	3	87.2	2	73.1	9	7.20	19	1.09	25	2,381	25	0.2
16 藤里町	22	71.0	15	25.2	24	1.4	19	7.7	23	0.13	7	90.7	10	75.6	4	33.6	4	0.89	24	278.0	24	37.5	11	35.5	20	4.86	9	1.45	22	3,359	22	0.3
17 三種町	8	74.5	13	25.4	21	4.3	20	7.4	18	0.25	6	91.8	7	77.0	10	26.2	8	1.29	9	424.4	4	86.8	3	67.5	21	4.86	10	1.45	15	17,078	15	1.7
18 八峰町	1	77.0	10	26.0	19	5.3	17	8.3	22	0.16	3	95.0	11	75.5	5	33.5	2	0.82	5	434.0	6	85.6	4	59.5	22	4.86	11	1.45	18	7,309	18	0.7
19 五城目町	21	71.4	22	23.4	11	9.4	4	10.6	19	0.25	9	89.2	18	69.0	18	16.5	12	1.59	22	299.3	18	64.3	10	35.8	4	7.68	4	1.75	17	9,463	17	0.9
20 八郎潟町	20	71.9	7	26.9	22	3.5	9	9.5	14	0.26	13	87.1	12	75.3	24	12.8	14	1.81	21	304.6	21	53.6	6	50.9	5	7.68	5	1.75	19	6,080	19	0.6
21 井川町	17	72.3	21	23.4	4	18.4	24	6.6	21	0.23	5	92.0	1	85.5	11	25.7	25	5.62	23	290.5	19	64.1	19	30.8	6	7.68	6	1.75	21	4,986	21	0.5
22 大湯村	2	76.9	25	5.2	3	24.7	25	6.4	6	0.35	12	87.2	5	78.3	20	15.1	22	2.89	25	236.3	25	23.9	17	31.3	7	7.68	7	1.75	23	3,110	23	0.3
23 美郷町	4	75.7	18	24.0	15	8.1	14	8.9	17	0.25	4	93.9	3	83.2	17	17.1	5	0.94	20	317.4	16	66.1	13	35.0	15	5.49	25	1.02	14	20,279	14	2.0
24 羽後町	6	75.0	12	25.4	12	9.3	16	8.5	20	0.24	2	95.3	4	79.6	6	29.4	3	0.85	17	374.4	1	90.2	20	30.3	24	4.65	21	1.02	16	15,319	16	1.5
25 東成瀬村	7	74.7	24	16.6	25	1.1	22	6.9	25	0.10	1	95.9	2	85.0	1	61.7	1	0.38	4	456.0	7	84.0	1	80.4	25	4.65	22	1.02	24	2,610	24	0.3
年次	2015		2015		2017		2014		2016		2015		2010		2017		2017		2016		2015		2018		2015		2015		2015		2015	
資料	総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		経済産業省「工業統計調査」		経済産業省「商業統計調査」		総務省「市町村別決算状況調」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		秋田県「消防防災年報29年報」		秋田県警察「市町村別刑法犯発生状況」		総務省「厚生労働省」		秋田県「放課後児童クラブ一覽」		まち・ひと・しごと創生本部「放課後児童クラブ一覽」		まち・ひと・しごと創生本部「放課後児童クラブ一覽」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」			
分子	労働力人口(15-64歳)		「A 管理的職業従事者」と「B 専門的・技術的職業従事者」(女性)の合計		製造品出荷額等		小売業事業所数		持ち家に住む一般世帯数		延べ面積100m <sup>2</sup> 以上		刑法犯発生数		児童福祉費		保育所等在所児数		放課後児童クラブ登録児童数										市町村人口			
分母	15-64歳人口(労働力状態不詳を除く)		雇用者(女性)		人口		人口		住宅に住む一般世帯数		住宅に住む一般世帯数		人口		0-17歳人口		0-5歳人口		小学校児童数(井川町は義務教育学校のうち1-6年生)										県人口			
備考					人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)				調査では「延べ面積」が調		人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		児童数は学校基本調査(2015)		事する」「複数従事する」「事する」「複数従事する」		事する」「複数従事する」「事する」「複数従事する」				算定式×100			

■定量分析資料（参考：県内市町村順位表示）③

	33		34		35		36		37		38		39		40		41		42		43		44		45		46		47		48	
	人口密度		人口変化率		15-29歳人口変化率：男		15-29歳人口変化率：女		高齢化率		高齢単独世帯比率		離婚者割合		第一次産業就業者割合		第二次産業就業者割合		第三次産業就業者割合		昼夜間人口比		くるみん認定企業割合		雇用者30人以上の小売店事業所数(人口1万人当たり)		人口1人当たり公園面積		小学校平均児童数(1校当たり)		身近にいる子ども数(0-17歳人口密度)	
	順位	人/km <sup>2</sup>	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	店	順位	m <sup>2</sup>	順位	人	順位	人/km <sup>2</sup>
秋田県	88		-5.8		-14.8		-16.5		33.6		12.3		5.4		9.8		24.4		65.8		99.8		4.2		2.6		27.0		214		11.5	
1 秋田市	2	349	1	-2.4	3	-11.3	5	-13.0	1	28.1	9	11.4	19	5.4	25	2.1	24	16.6	1	81.3	4	104.4	9	4.4	3	3.3	19	19.5	1	336	1	48.3
2 能代市	5	128	11	-7.4	11	-15.6	14	-19.8	14	37.0	18	15.4	24	6.3	21	8.7	21	23.4	2	67.9	3	104.6	12	0.0	13	2.2	24	9.2	12	175	6	15.3
3 横手市	4	133	7	-6.3	15	-18.2	12	-18.0	7	35.1	4	10.3	9	4.7	6	16.2	20	24.9	14	58.9	5	101.8	7	6.5	9	2.5	14	24.9	7	233	4	17.8
4 大館市	11	81	4	-6.0	6	-12.0	6	-14.6	11	35.8	14	13.8	23	6.1	23	7.0	9	28.2	5	64.8	6	101.5	11	2.0	10	2.4	11	26.6	9	181	11	10.6
5 男鹿市	7	118	23	-12.1	25	-32.7	25	-36.3	20	41.1	22	16.3	17	5.3	11	13.8	22	23.2	6	63.0	14	94.5	13	0.0	7	2.8	17	21.0	19	145	10	11.7
6 湯沢市	15	59	14	-8.3	9	-13.7	8	-16.0	10	35.7	12	11.9	10	4.8	15	12.5	4	32.2	18	55.3	7	100.9	6	7.7	17	1.9	18	20.0	16	154	15	7.3
7 鹿角市	16	45	10	-7.1	4	-11.6	15	-20.2	13	36.8	16	14.9	21	5.8	13	13.1	12	27.3	13	59.7	13	97.0	14	0.0	14	2.2	15	23.3	17	154	16	6.1
8 由利本荘市	14	66	5	-6.2	10	-15.4	10	-17.0	4	33.1	5	11.0	15	5.2	19	11.2	5	30.9	16	57.9	11	98.4	15	0.0	12	2.3	13	25.7	5	254	12	8.9
9 潟上市	3	339	3	-3.9	7	-12.8	4	-12.9	3	31.3	6	11.2	22	6.0	24	6.2	13	26.9	3	67.0	24	82.2	4	18.2	15	2.1	12	26.3	6	240	2	48.0
10 大仙市	10	96	6	-6.2	12	-15.6	9	-16.6	6	34.6	11	11.9	14	5.2	10	13.9	16	25.8	12	60.3	8	99.1	10	2.8	6	2.9	6	52.3	14	167	9	12.5
11 北秋田市	19	29	15	-8.7	8	-13.6	7	-14.7	19	40.5	21	16.0	16	5.2	17	11.6	11	27.6	10	60.8	9	98.8	8	4.5	19	1.8	4	61.1	20	116	19	3.3
12 にかほ市	8	105	12	-8.1	22	-24.5	20	-23.3	5	34.4	7	11.2	11	4.8	20	10.2	1	39.4	23	50.5	12	97.4	16	0.0	11	2.4	16	23.2	4	265	7	14.7
13 仙北市	21	25	9	-6.9	13	-16.4	16	-20.2	17	38.4	13	13.7	25	6.5	9	14.1	19	25.2	11	60.7	10	98.6	17	0.0	8	2.5	10	27.0	15	158	20	3.1
14 小坂町	20	27	22	-11.8	16	-19.4	21	-24.7	21	41.7	24	18.4	20	5.5	22	8.4	7	29.8	7	61.9	2	108.9	5	14.3	18	1.9	3	65.9	10	180	22	3.1
15 上小阿仁村	25	9	24	-12.7	17	-20.0	1	-3.1	25	48.7	25	20.5	18	5.4	7	15.8	8	28.4	17	55.8	16	90.6	18	0.0	23	0.0	9	31.7	25	52	25	0.7
16 藤里町	24	12	25	-12.7	23	-24.6	24	-31.0	24	43.6	23	16.9	7	4.5	14	12.9	15	26.0	9	61.2	23	84.6	19	0.0	5	3.0	21	16.3	22	107	24	1.2
17 三種町	12	69	19	-9.5	21	-22.8	18	-21.6	18	39.6	17	14.9	13	5.1	3	20.1	18	25.6	19	54.2	19	87.7	3	20.0	2	3.5	7	44.9	24	96	14	7.6
18 八峰町	18	31	21	-11.1	5	-11.8	23	-26.6	22	41.7	19	15.7	8	4.7	2	21.1	17	25.7	20	53.2	20	87.5	20	0.0	24	0.0	8	38.3	21	114	18	3.3
19 五城目町	17	44	20	-10.0	19	-20.8	13	-19.5	23	41.8	20	16.0	12	4.9	16	12.4	14	26.2	8	61.3	15	93.2	21	0.0	1	4.2	23	13.6	2	279	17	4.6
20 八郎潟町	1	358	13	-8.2	24	-26.7	22	-25.5	15	37.3	15	14.1	6	4.5	18	11.3	23	22.5	4	66.2	22	84.9	22	0.0	20	1.6	20	16.9	8	214	3	41.8
21 井川町	9	104	18	-9.2	2	-10.8	11	-17.4	16	37.6	10	11.5	4	4.1	12	13.6	10	27.9	15	58.5	17	89.7	23	0.0	16	2.0	2	77.4	13	169	8	12.6
22 大湯村	22	18	2	-3.4	1	-2.2	2	-7.2	2	30.9	1	6.3	1	2.2	1	77.1	25	1.5	25	21.4	1	116.2	24	0.0	4	3.2	22	14.0	11	179	21	3.1
23 美郷町	6	121	8	-6.4	14	-17.2	17	-21.3	9	35.3	2	9.9	5	4.5	5	17.0	6	30.2	21	52.8	21	85.2	2	25.0	22	1.0	5	57.7	3	267	5	15.5
24 羽後町	13	66	16	-8.8	18	-20.8	19	-22.9	8	35.1	3	10.3	2	3.8	4	17.6	3	33.3	24	49.1	18	88.7	1	33.3	21	1.3	25	5.9	18	153	13	8.3
25 東成瀬村	23	13	17	-9.1	20	-22.1	3	-10.4	12	36.5	8	11.3	3	4.0	8	14.9	2	33.5	22	51.6	25	81.3	25	0.0	25	0.0	1	122.6	23	97	23	1.7
年次	2015		2015		2015		2015		2015		2015		2015		2015		2015		2015		2015		2016		2016		2018		2015			
資料	総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		総務省統計局「国勢調査」		経済産業省「経済センサス」		総務省「公共施設状況調査」		文部科学省「学校基本調査」		総務省統計局「国勢調査」			
分子			2015人口		15-29歳人口(2015)		15-29歳人口(2015)		65歳以上人口		高齢者単身世帯数				第一次産業就業人口		第二次産業就業人口		第三次産業就業人口		昼間人口				雇用者30人以上の小売店事業所数		都市公園等面積+その他の公園面積		児童数		0-17歳人口	
分母			2010人口		15-29歳人口(2010)		15-29歳人口(2010)		総人口		一般世帯数				就業者人口		就業者人口		就業者人口		夜間人口				人口		人口		小学校数		面積	
備考			(算定式-1)×100		(算定式-1)×100		(算定式-1)×100		算定式×100		算定式×100		15歳以上		算定式×100		算定式×100		算定式×100				人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		義務教育学校の					

■定量分析資料（参考：県内市町村順位表示）④

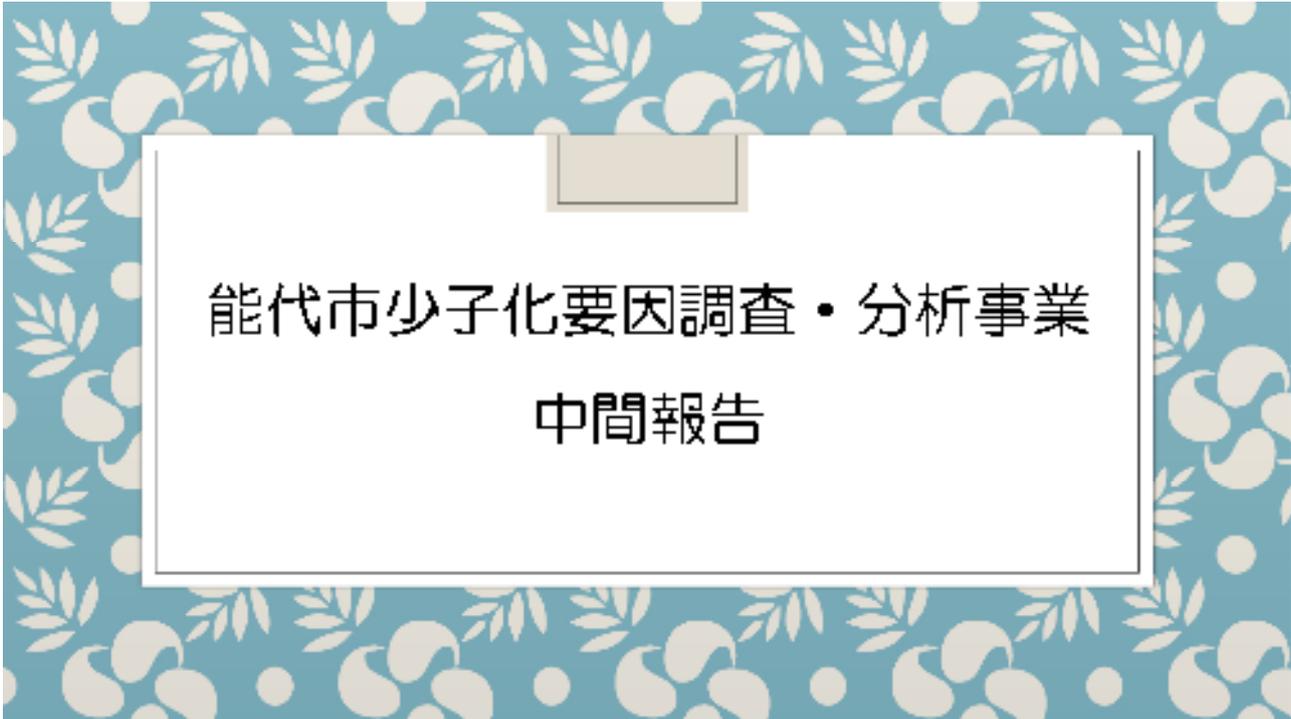
	49		50		51		52		53		54	
	分娩施設数 (人口10万人 当たり、 二次医療圏)		保健師数(人 口1万人当 たり)		地域子育て支 援拠点事業・量 の見込み(0-2 歳人口比)		小児科等の病 院・診療所数 (人口10万人 当たり)		通勤時間(家 計を主に支え る者、中位 数)		女性第三次 産業従業者 割合	
	順位	力所	順位	人	順位	人回	順位	力所	順位	分	順位	%
秋田県		2.2		3.2		18.0		1.4		19.5		75.5
1 秋田市	15	1.7	25	1.7	2	31.5	14	1.3	4	21.0	1	86.8
2 能代市	22	1.2	24	2.4	4	24.0	13	1.5	16	14.0	4	77.2
3 横手市	1	3.3	17	3.7	7	15.1	10	1.5	10	18.1	17	68.7
4 大館市	12	1.8	23	2.8	13	7.2	18	0.8	12	16.8	7	74.7
5 男鹿市	16	1.7	12	4.2	14	7.0	3	2.8	2	21.6	5	76.6
6 湯沢市	2	3.1	18	3.6	5	16.8	16	1.3	9	18.2	20	65.6
7 鹿角市	13	1.8	21	3.4	22	1.8	9	1.6	15	15.2	13	70.9
8 由利本荘市	8	2.9	19	3.6	20	2.8	8	1.6	7	19.3	12	71.0
9 潟上市	17	1.7	15	3.9	12	11.6	17	1.2	1	24.7	2	78.3
10 大仙市	5	3.1	16	3.9	23	1.7	6	1.8	5	20.3	15	70.5
11 北秋田市	10	2.8	20	3.6	3	27.5	11	1.5	13	16.2	9	72.4
12 にかほ市	9	2.9	8	5.5	19	3.0	4	2.0	14	15.4	18	67.1
13 仙北市	6	3.1	6	5.8	17	6.2	5	1.8	8	18.7	10	72.1
14 小坂町	14	1.8	7	5.6	11	13.2	20	0.0			3	77.2
15 上小阿仁村	11	2.8	1	12.6	24	0.0	21	0.0			16	69.7
16 藤里町	23	1.2	2	8.9	25	0.0	22	0.0			8	74.3
17 三種町	24	1.2	10	5.3	15	6.6	19	0.6	3	21.2	19	66.0
18 八峰町	25	1.2	13	4.1	6	15.9	23	0.0			23	62.7
19 五城目町	18	1.7	9	5.3	16	6.2	2	3.2			11	71.9
20 八郎潟町	19	1.7	11	4.9	1	141.8	7	1.6			6	76.6
21 井川町	20	1.7	3	8.0	21	2.4	24	0.0			14	70.8
22 大湯村	21	1.7	5	6.4	9	13.7	25	0.0			25	23.8
23 美郷町	7	3.1	14	3.9	18	3.9	12	1.5	6	19.8	21	64.9
24 羽後町	3	3.1	22	3.3	8	15.0	15	1.3	11	17.3	24	61.0
25 東成瀬村	4	3.1	4	7.7	10	13.4	1	3.8			22	64.9
年次	2018		2018		2018		2019		2013		2015	
資料	秋田県産婦人 科医会HP		厚生労働省 「保健師活動補償調査」		社審議会児童福 平成29年度第2回会議資料		病院なびHP		総務省 「住宅・土地統計調査」		総務省統計局 「国勢調査」	
分子	分娩施設数		保健師数		量の見込み		小児科等の 病院・診療所 数				第三次産業 従業者数	
分母	二次医療圏 人口		人口		人口		人口				従業者数	
備考	人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)		人口は国勢調査(2015)					

資料：秋田県「少子化要因調査・分析事業」報告書（フィデア情報総研作成）

定量分析資料（参考：県内市町村順位表示）はフィデア情報総研が統計資料を基に作成。

## ➤ 中間報告書

弊社では、令和2年2月28日に能代市役所会議室（新庁舎3階）で開催された「第4回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」において中間報告を行った。その概要は下記のとおりである。



# 能代市少子化要因調査・分析事業 中間報告

## 秋田県「少子化要因調査・分析事業」

- ・若年者の未婚化が出生率の低下・低迷を誘引する傾向
- ・第1子出生率の低迷、第3子以上の比較的高い出生率
- ・バランスのとれた“地域力”
- ・家族と地域コミュニティ
- ・伝統産業、地場産業の繁栄と転換
- ・新たな共助システムの構築

定量分析からみた  
能代市の特徴

↓  
(別紙参照)

能代市の特徴 ～他地域との比較において～

【各種データから定量的に把握できる特徴】

- ・未婚者割合が高い、第1子の(有配偶)出生率が高い
- ・三世帯世帯割合が低い
- ・第三次産業就業者割合が高い
- ・女性の管理的専門的技術的職業従事者割合が高い

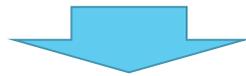
↓

総じて、“大都市”にみられる特徴

## 人口減少と地域への影響

【10～70代の地域住民へのアンケート調査より】

- ・人口減少を実感している－約80%
- ・人口減少への対策は重要－約80%



- ・子ども数がどんどん少なくなっている
- ・地元に残っている人のなかには結婚していない人も多い（特に、長男）
- ・地域の人口が減り、商店街にも後継者のいない店が多い

## 若者の地域への思い

【高校生へのアンケート調査より】

- ・地元進学（35人）⇔地元以外へ進学（334人）
- ・地元に戻りたい（60%）
- ・帰るつもりはない（37%）
  
- ・生まれ育ったふるさとで暮らしたい（24%）
- ・家族と一緒に暮らしたい（18%）
- ・地域のために自分も何か力になりたい（24%）
  
- ・地元で希望する就職先がない（39%）～特に男子学生
- ・就職を希望する職種：医療関係／公務員／製造業、IT等、ファッション・デザイン

### 【ヒアリングでは】

- 同級生の集まりなどで、都会から戻ってきたい、地元へ帰ってきたいという人が一定数存在する一方で、地元意識が弱まる傾向も

- 親の意識として、子どもに1回は外へ出てほしい、外の世界を経験してほしい、そしてしばらく働いたら戻ってきてほしいと考えている人が多い

⇒ その背景には親の影響も

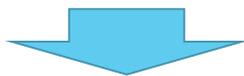
親世代のなかにもかつて首都圏やその他の大都市で就学、就業した経験のあるものが多い

親世代は地元資源をどの程度知っている？

## 家族・世帯の特徴

### 【各種データから定量的に把握できる特徴】

- 能代市における未婚者割合、少子化、離婚率
- 三世代世帯割合が低い



- 多様な家族形態
- 子どもが3人以上いる夫婦と祖父母の支援
- 集える場所（とりわけ屋内）に対する要望

## 結婚に関連して

【18～49歳の未婚者へのアンケート調査より】

- ・結婚を希望する未婚者において、とくに何も活動していないー約65%
- ・参加してみたいイベントや講座はないー約44%



## 結婚に関連して

【18～49歳の未婚者へのアンケート調査より】

- ・結婚を希望する未婚者において、とくに何も活動していないー約65%
- ・参加してみたいイベントや講座はないー約44%



## 能代市の結婚支援の特徴

- ・ 県北地域は、あきた結婚支援センターの登録者数が他地域よりも少ない
- ・ NPO法人をはじめ民間団体（および個人）による主体的でユニークな取り組み
- ・ 地元ではなく……

## 考察

～まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連において～

- ▶ 能代市内における地域的な差異
- ▶ 大都市とのつながりを持つ住民
- ▶ 小規模化する世帯、多様な居住形態
- ▶ 2つの自立
- ▶ 地域間の連携
- ▶ さりげないおせっかい（ナッジ）

※ Nudgeは罰でそっと相手を促す“選択肢を制限せず、人の行動を促す”  
2017年ノーベル行動経済学賞シカゴ大学のリチャード・セイラー教授

# 能代市「少子化要因調査・分析事業」報告書

発行 令和2年3月

監修 佐々井司（国立社会保障・人口問題研究所 情報調査分析部室長）

工藤 豪（日本大学文理学部非常勤講師）

発行 能代市企画部総合政策課 人口政策・移住定住推進室

〒016-88501 秋田県能代市上町1-3

TEL : 0185-89-2163

編集 株式会社フィデア情報総研